



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 174 July. 1. 2023

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

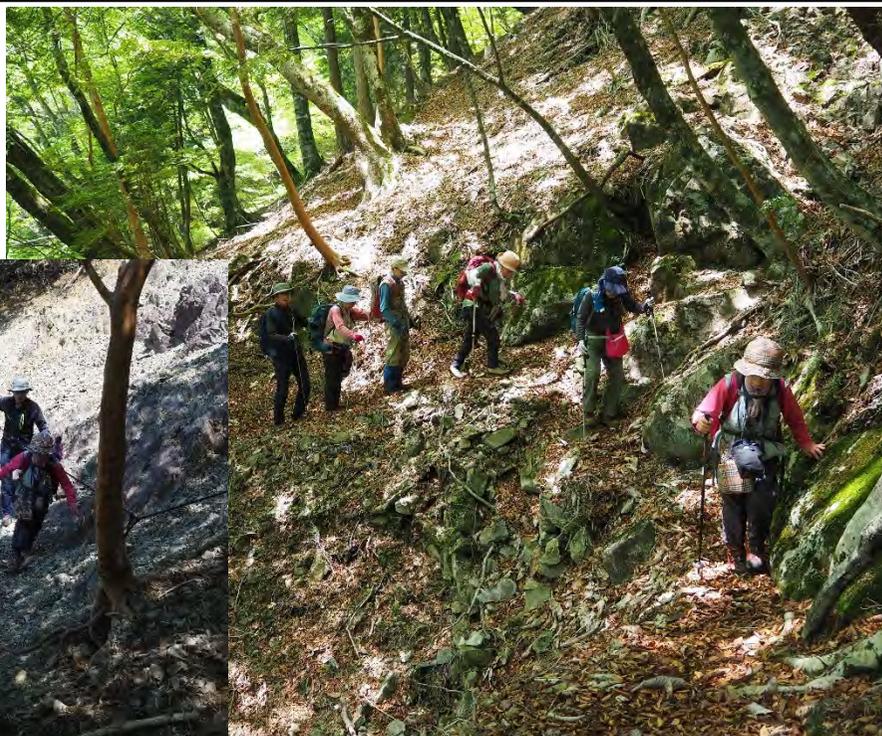
銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (有) アジマプリント

山岳古道調査



尾鷲道を慎重にトレース中の支部の古道調査委員ら

尾鷲道(リスク高)の蛇抜け地帯はフィックスロープに捨て縄を通して確保し通過 本文P18参照

目次

○令和5年度支部通常総会 新役員の紹介	今津英一朗	2	○イグルー講習会報告	野寄あかね	18
○令和4年度事業報告		6	○トピックス		19
○令和5年度事業計画		8	○山岳古道調査活動報告(4)	西山秀夫	20
○令和5年度役員/組織図		9	○山書蒐集その5	安藤忠夫	24
○ユースコーナー			○委員会報告 亀の会/山行		26
アルパインクラブという選択肢	高橋玲司	11	○登山用具あれこれ⑧	千葉泰丈	28
フォレ北壁登山計画	山田利行	12	○東海支部蔵書からの一冊36	石田文男	29
カナディアンロッキー報告書	山田利行	13	○同好会コーナー		30
○第7期登山学校開校	服田康宏	15	○支部友コーナー		31
○トレッキングクラブ始動	服田康宏	16	○会務報告	今津英一朗	32
○猿投の森づくりの会総会	和田豊司	17	○ルーム日誌・会員異動	今津英一朗	36
○第9回夏山フェスタの開催	今津英一朗	17	○INFORMATION	星 一男	37
			○編集後記		

令和5年度支部通常総会 支部長・副支部長・新役員の挨拶

総務委員会委員長 今津 英一郎

令和5年度支部通常総会

東海支部通常総会は以下のように開催されました。

開催日：2023年5月14日(日)14:00～

開催場所：支部ルーム

出席者等：50名出席116名委任、77名賛成
合計243名 (3/31在籍331名)

出席者・委任状等による1/2の出席を得られ成立しました。

また、組織体制、事業報告、会計報告など1～3号全ての議案が決議されました。

総会後に支部委員会紹介、懇親会も併せて開催され、支部内の交流を図ることができました。



支部各委員会の紹介

支部委員会報告は、一部の支部友会員も参加し、10委員会が報告、紹介しました。支部員、支部友員が各委員会へ所属して活動に取り組めるよう、横の繋がりを結びつける取り組みです。



懇親会

懇親会は少しお酒も入り、和やかな雰囲気です。久しぶりの交流を図ることができました。

支部長あいさつ

高橋 玲司

令和5年度がスタートするにあたりご挨拶をさせていただきます。

3年にわたり世界中を苦しめ、活動自粛が余儀なくされた新型コロナウイルスも、過去のものとなりつつあり、従前の取り組みが戻ってきました。活動の中も徐々に増え支部員皆さんも山で集えている事の楽しみを、着実に増えてきた事を実感しているのではないのでしょうか。

一方コロナに向き合う生活で『新しい生活スタイル』へと社会は随分加速度的に変化しました。当支部もウェブ併用など、時代への対応も模索しながら今後の活動をしていただきたいと思います。

昨年度を振り返りますと、コロナ禍の中ではありましたが非常に多くの活動を実施していただきました。社会的弱者に対する各種のボランティア委員会による支援登山、第6期を迎えた登山学校、遭難防止活動を実践する遭難対策委員会、安全登山の啓発に向けた各種取り組みの技術向上委員会、初心者の入門から始め一大勢力となった支部友委員会、猿投山で活発に活動する森づくりの会、自然保護委員会、若手を中心に活動を行う青年部、東海ユース、1000人を超える来客のある岳人写真展を実施した写真展委員会、高齢者に向けた亀の会など盛り沢山でした。

東海山岳も出版がありました。そして海外登山では山田利行・谷剛士支部員によるカンチンナップ北西壁初登、そして秋には山田利行君のマナスルとアマダブラムのスピード登頂記録など、話題の多い年でもありました。

人事面では、昨年度まで東海支部に大変尽力いただき、本部の監事も務められた佐野副支部長が退任されました。佐野さんにつきま



しては本部の監事の任期もあり、まだまだ本部と支部の繋ぎとしてご活躍いただきたいと思います。後任には前田新副支部長に就任してもらいました。

前田新副支部長には、長年ボランティア委員会をけん引していただいた手腕を生かし、支部運営の中核として、又新たに作った交流委員長として、ご活躍いただければと思っています。

さて、支部運営を考えると、今後の課題は二つあります。一つは会員数の減少。私が支部長に就任してから、会員数が微減傾向にあります。6年前364名いた会員数は331名となりました。傾向としては入会人数も多いが退会も多いという傾向が続いています。やめていく人を食い止めれば、東海支部はまだ会員数の減少に歯止めがかかります。歯止めをかけるにはどうしたら良いか。「支部の活性化」が必要です。各委員会に加入し、委員会活

動を充実する。各委員会同士の横の交流を実施する。他支部や本部との交流を行う。などなど活性化に向けた取り組みはあると思います。

もう一つは「財政の健全化」です。昨年度の会計報告を見ると、繰越金もなくなり赤字になりました。今までは、何とかやってこれたのと、寄付や収益事業もあり、支部にも余力もありましたが、今後はそうはいきません。赤字体質であった支部収支を抜本的に見直し赤字化を食い止めるべく、持続可能な組織を目指し検討を開始します。

見直せるものは見直し、より活性化された支部を目指す今年度は重要な年度になると思います。より楽しく過ごせる支部ライフを充実できるような支部を皆さんと作っていきたいと思います。皆さんの英知をお聞かせいただき改善していきましょう。

新任挨拶

副支部長、
支部交流委員会
委員長

前田 隆久

今年度より、副支部長を務めさせていただきます前田隆久です。2012年度にボランティア委員会委員長に就任して11年目入りました。この間、東海支部の多くの皆様に、委員会活動にご協力いただき、無事に10年間勤めてこれた事を、改めて厚く御礼申し上げます。加えてこの度、副支部長と支部交流委員会という大任を仰せつかりました。微力ながら支部発展のため尽くしていきたいと思っています。今後ともよろしく願い申し上げます。

高橋支部長が挙げられる東海支部の課題に「支部の活性化」と「財務の健全化」があります。

支部を活性化し、楽しいクラブを目指すことが、退会者を減らし入会者を増やします。強いては財務健全化のベースにもなっています。今回作られた支部交流委員会は、「他支部との交流のみならず、支部内での交流も活



性化する」のがミッションと聞いております。新しい委員会で、手探りのスタートですが、気負わず、やれる事からこなし成果を残し、課題解決に少しでもお役に立てばと考えております。

各委員会委員長様、東海支部の皆様のご理解とご協力をお願いいたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

海外登山委員会

委員長 山田 利行

東海支部の皆様高橋支部長から直々に荣誉ある海外登山委員長に任命された山田利行です。 昨年の秋から夏はカナダ、冬は日本という形で二

拠点での生活を実験的に始めました。それに伴い日本滞在期間が増えました。今後は積極的に東海支部の活動に関わりたいと考えています。東海支部隊として私が行った遠征活動のアウトプットをすること。東海圏の熱意あるクライマー達を集めて、海外登山の勉強会や交流の場を設けること。この二点を今年度の目標として活動していきたいと思っています。



若輩者ではありますが、どうぞご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

亀の会 代表

村瀬 恭平

本年度より、前任の加藤守彦さんの後を引き継ぎ、亀の会の代表を仰せつかりました村瀬です。



会員54名の中で一番の若手で(若手と言っても老齢年金自給資格者)、何かと不手際が多いと思いますが、仕事との両立を図りながら最善を尽くしますので、よろしきご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

亀の会の年齢構成は、逐年上方にシフトしており、現在、80歳以上が19名、全体の36%、75歳以上が37名、全体の70%を占めています。発足以降、ほぼ毎年傘寿(数え年80歳)のお祝いを行っているが、2019年から米寿祝い(数え年88歳)の山行が加わり、2021年は、卒寿祝い(数え年90歳)山行が加わっています。2023年以降も、卒寿・米寿・傘寿祝い山行が絶えることなく続く見通しです。

亀の会の山歩き参加の目標は、「傘寿まで」から「卒寿まで」に変わってきて、会全体の年齢が上がってきたため、「身の丈にあった山」は、次第に「歩行時間が短く、易しい山」の傾向にあります。

ところが亀の会の効用として、会員同士がお互いの元気な姿を見て、元気ももらっている。元気な高齢者仲間を見ると、「あの人の歳まで頑張れる気がする」という相乗効果があります。

亀の会の主旨

- ・ 自立したシニアの登山「卒寿(数え歳九十歳)まで山歩き」を目指す。
- ・ 山行対象の山は、「時間のかからない軽い山」だけでなく支部山行の対象としている様な山も身の丈に合った時間をかけて登る。

自然保護委員会 委員長

石原 俊洋

今春から御役目をいただき、



楽しい自然保護活動に取り組みたい、と思っています。

学生時代、北ア槍ヶ岳の山小屋で3カ月間のアルバイトをしたおり、今ではあり得ないようなタバコの吸い殻ゴミが山道に散乱するする光景がありました。素晴らしい登山のお礼や恩返しに「いつまでも、大自然が残るような取り組みを」と心に刻んだことを思い出します。

その後、御岳山麓などの植林地が荒れて天然記念物二ホンカモシカの食害問題が発生しました。文化財保護法も学ぶなどし、モノ言えぬ生き物たちに代わって未来に残す自然の大切さをかみしめました。

私は今、名古屋最高峰の守山区にある東谷山に週2、3回登って一帯に残る国史跡の古墳群の保護、保全のため、見回っています=写真は、復元古墳の左側に東谷山を望む。

当委員会では、支部フィールドの猿投山内で野生動物の調査に向け、監視カメラを置いて記録撮りを継続中です。大自然の中での観察会などもあり、皆さんと一緒に一味二味も違う山行を計画、実行しませんか?

東海学生山岳連盟

委員長 鯉江 知樹

このたび、東海学生山岳連盟の委員長になりました鯉江知樹です。日頃より学生に対しご支援、ご指導いただきありがとうございます。



私が学生連盟に初めて関わったのは大学1年生の時に参加したゴザフェスでした。当時は新型コロナウイルスの影響で、人と山に登るどころか新しく人に会う機会さえもほぼない状況でした。そのような状況下で開催されたゴザフェスは、今までに会ったことのない山の人と初めて出会えた機会であり、大学に入学後初めてのとても楽しい時間を過ごすこととなりました。そして、ゴザフェスに参加して以降、先輩に連れられ学生連盟へ顔を出すことが多くなっていきました。

ゴザフェスがきっかけとなり学生連盟に関わるようになり今に至ることもあり、東学連最大の行事であるゴザフェスを、今年度は今

まで私が参加してきた中で最高のゴザフェスにしたいと考えています。現在、学生連盟で活動をしている大学はわずかに4大学となり、学生連盟での活動も少なく、学生連盟の運営も上手くいかないことも多いのですが、学生連盟は学生連盟として活動していくので、今後とも様々な面でご支援、ご指導のほどよろしくお願いたします。

春の総会

5月25日夜に東海支部ルームで東海学生山岳連盟春の総会が行われました。今年度は、名古屋大学、名古屋工業大学、南山大学、大同大学の4大学から合計7人が集まりました。新入生にも来ていただき、各大学の昨年度の活動報告を交え、大学間での交流が行われた良い機会であったと思っております。

今後の活動

現在の学生連盟では、クライミングや沢登りに限らず登山の計画を立て、他の学生を連れて行く学生は少なく、他大学の学生と山に行く機会は少なくなっていると感じています。新型コロナウイルスの影響がほとんどなくなった今、大学によっては登山活動が活発化しているため、学生連盟としても活動をしていきたいと考えております。

御在所フェスティバル

今年度の御在所フェスティバル(ゴザフェス)は9月23日、24日に行われることが決まりました。ゴザフェスは東海学生山岳連盟の最大の行事であり、今年は東海地区に限らず遠方からも出身や環境の異なる多様な多くの学生に集まっていただき、他にはない最高のイベントにしようと考えており、計画を進めております。

登山学校同窓会

代表 岡本 英俊

ここに同窓会について一言。

同窓会委員会は令和2年6月、登山学校卒業と共に登山学校の小委員会として発足しました。卒業生の受け皿として卒業生が仲間同士で山行出来れば支部として活発に活動できるのではとの思いで設立しました。現在約50名



程が在籍をしております。

今年令和5年6月で丸三年が経ちました。残念なことに世界中で蔓延したコロナにより活動は縮小され止む無く遠征する事が出来ず粛々と活動をしてきました。その三年間の中には伊吹山ナイトハイクをして夜空を観察したり、長者峰の小屋で夜、星空と酒盛りして楽しんだり、大雪の霊仙山をワカンで登ったりして楽しみました。現在の山行は委員会メンバーが頭となって山行するのが多いのですが行く行くは同窓会メンバーが仲間を集めてパーティーを組んで山行出来るようにしたいと思っております。

コロナが縮小した昨年11月には、朝明茶屋にて懇親会を二日間行いました。35名程が参加され、1日目は懸垂下降やロープワーク、テント張りツェルト張など体験、夜は鍋などで懇親を深めあい、翌日は各組7パーティに分かれて山行する予定でしたが雨で延期となりましたが、今は山行は完了しています。先程でも言いましたが委員会は会員同士が仲間となり山行し、東海支部の活動を継続的に支援することが目的としております。同窓会の皆様、一声声を出し合い、山行しようではありませんか。期待しています。

写真展実行委員会 委員長 岩月 邦文

令和5年度より写真展実行委員会の委員長に選任されました岩月邦文です。

写真展実行委員会は規約にありま

すとおり、隔年に開催します東海岳人写真展の開催が主な活動ですが、写真山行や写真勉強会をとおして写真技術の向上にも寄与すべき活動をしていきます。

これまで培ってきた先輩たちの実績や支部員の皆様からのアドバイスを糧に実りある写真展実行委員会を目指していきます。何事も『楽しむ』ことに勝るものはないと思います。

支部員として若輩者ですので、皆様からのご指導ご鞭撻よろしくお願致します。



東海支部令和4年度事業報告

期 日	内 容	担 当
I 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
随時開催	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
通年	せと環境塾とのタイアップ講座 12回	猿投の森づくりの会
随時開催	森の研修会（わいがや講座）	猿投の森づくりの会
通年	森の調査（プロット調査、標本木の胸高直径調査）	猿投の森づくりの会
11～3月	なごや環境大学とのタイアップ講座 4回	猿投の森づくりの会
(2) 児童・青少年の育成事業		
6月	たんぼぼ登山（身柄付き補導委託登山）	ボランティア委員会
10月 中止	たんぼぼ登山（身柄付き補導委託登山）	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	東海学生山岳連盟
5月	知的障がい者支援登山（SON・愛知支援登山）	ボランティア委員会
10月 中止	親と子のふれあい登山教室, 2回（尾高山）	ボランティア委員会
11月	幼稚園児の森体験（森の探検隊）	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
6月	夏山フェスタ	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第6期開校	登山学校運営委員会
8月 11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会
(4) 事故防止事業		
通年	メール・FAX（書面）による登山届の提出の促進 ハイグレード登山計画審査	遭難対策委員会
秋	チェンソー慣熟訓練	猿投の森づくりの会
随時	安全登山啓発のための情報「安全登山教室」を発信	技術向上委員会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助 気象講習会の開催	遭難対策委員会 ・登山学校運営委員会
(5) 山岳環境保全事業		
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC 山桜フィールド整備 炭作り	猿投の森づくりの会
通年	植生等保護作業（調査・マーク・保護処置作業等）	猿投の森づくりの会
通年	林道整備（沿道草刈・路面整備・枯死木処理など）	猿投の森づくりの会
通年	せと環境塾（豊かな自然、自然循環を理解。瀬戸市の講座）	猿投の森づくりの会
5月～10月	モニタリング1000の類動物調査 環境省の委嘱 猿投の森の動物調査（猿投の森）	自然保護委員会
(6) その他目的を達成するための事業		
5月	春のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会
11月	秋のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会
年5回実施	視覚障がい者との親睦登山（ひまわり山行）	ボランティア委員会
期 日	内 容	担 当
II. 共益事業		
随時	自主山行を実施、SNSで情報発信	青年部
4月	御在所にて日向小屋本部・広島交流会を実施	青年部
6月	飛騨小坂赤谷にて青年部・学連沢登り合同講習実施	青年部
10月	上高地山研小屋・明神岳にて委員会合宿を実施	青年部

期 日	内 容	担 当
Ⅱ. 共益事業 (つづき)		
1 月	南木曾岳にて積雪期山行トレーニングを実施	青年部
2 月	八ヶ岳・阿弥陀南稜にて厳冬期登山合宿を実施	青年部
年 6 回	支部友ミーティング	支部友会
毎月 3～5 回	支部友山行 計画 59 回 実施 45 回 参加人数延べ 288 人	支部友会
年間 60 回程度	支部定例山行 計画 77 回 実施 47 回 参加人数延べ 273 人	山行委員会
毎月 1 回	亀の会定例山行 月例山行 実施 7 回 参加者 116 名 中止 5 回	亀の会
随時	自主山行 (日帰り+宿泊山行) 実施 6 回 参加者 延べ 82 名	亀の会
随時	歩こう会の実施 実施 3 回 参加者 延べ 30 名	亀の会
月 1 回	定例山行	東海 Youth
5・7・9 月	山の写真教室	写真展実行委員会
2 月 21～26 日	第 18 回東海岳人写真展 名古屋市民ギャラリー栄 出展者 33 名、出展数 48 点、来場者数延べ 1,001 人	写真展実行委員会
随時	写真撮影山行 7 回	写真展実行委員会
その他活動		
支部報編集委員会 支部報 年 4 回発行 NO.169 (4 月) NO.170 (7 月) NO.171 (10 月) NO.172 (1 月) 東海山岳 12 号発刊		
総務委員会 支部ガイド 2022 年 7 月発行、常務委員会 毎月第 4 水曜日 支部長、副支部長会議 毎月第 3 木曜日、支部通常総会 2022/5/15 開催 通年 メルマガ「東海支部ガイド」配信		
デジタルメディア委員会 通年 支部山行申込システムの管理 通年 ホームページによる情報発信		
図書委員会 通年 支部蔵書紹介および蔵書管理 蔵書受け入れ		
東海支部 60 周年記念事業 4 月 ヒマラヤ登山隊助成金支援 カンチュンナップ(6090m) 山田利行、谷剛士 9 月 ヒマラヤ登山隊助成金支援 マナスル・アマダブラム速攻登山 山田利行 第 1 4 次インドヒマラヤ登山隊 2 座登頂		
装備委員会 通年 装備委員会で共同装備などの管理および装備講習会の実施		
日本山岳会百二十周年事業「山岳古道調査」 通年 日本山岳会 120 周年企画に向けた取り組みの開始。調査対象の選定。 本格活動へ向け、メンバー募集などを実施。		

令和5年度事業計画

期 日	内 容	担 当
I. 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月1回	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
7月～9月	森の研修会（緑陰講座）	猿投の森づくりの会
通年	わいがや講座（環境、自然、生物多様性、SDGsの研修）	猿投の森づくりの会
年1回	森の調査（プロット調査など）	猿投の森づくりの会
11月	森づくり体験（法人デー）	猿投の森づくりの会
(2) 児童・青少年の育成事業		
年2回	SON愛知・山岳会と一緒に登山（知的障がい者との登山）	ボランティア委員会
年2回	たんぼぼ登山（身柄付き補導委託登山）	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	東海学生山岳連盟
10・11月	親と子のふれあい登山教室（自由ヶ丘幼稚園児との登山）	ボランティア委員会
11月	森の探検隊（幼稚園児森林体験） 猿投の森	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
6月3・4日	夏山フェスタの主催協力	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第7期開校	登山学校運営委員会
8月11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会
(4) 事故防止事業		
通年	メールによる登山届の提出の促進	遭難対策委員会
随時	指導者養成訓練	登山学校運営委員会
通年	チェーンソー・刈り払い機・取り扱い訓練	猿投の森づくりの会
通年	チェーンソー取り扱い安全講習 受講促進	猿投の森づくりの会
随時	安全登山啓発のための情報提供と、視野拡大のための講演会	技術向上委員会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会
	気象講習会（夏・春）、装備講座（夏・冬）の開催	・登山学校運営委員会
随時	指導員による研修山行	トレッキングクラブ
(5) 山岳環境保全事業		
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC山桜フィールド整備（炭焼き体験、シイタケ栽培等）	猿投の森づくりの会
通年	林道整備（沿道草刈・路面整備・枯死木処理など）	猿投の森づくりの会
10月～3月	なごや環境大学 タイアップ講座	猿投の森づくりの会
通年（1回/月）	せと環境塾。豊かな自然・循環を理解。瀬戸市タイアップ講座	猿投の森づくりの会
5月～9月	モニタリング1000の類動物調査 環境省の委嘱	自然保護委員会
	猿投の森の動物調査（猿投の森）	自然保護委員会
	上山路川遊行	自然保護委員会
(6) その他目的を達成するための事業		
5月	春のブラインド登山（視覚障がい者との登山）	ボランティア委員会
11月	秋のブラインド登山（視覚障がい者との登山）	ボランティア委員会
年3～4回	支部員視覚障がい者との登山（ひまわり山行）	ボランティア委員会
II. 共益事業		
随時	自主山行	青年部
4・5月	残雪期登山講習	青年部
5・6月	ファーストエイト講習、読図遭難講習	青年部

期 日	内 容	担 当
Ⅱ. 共益事業 (つづき)		
9・10月	クライミング合宿	青年部
10・12月	鈴鹿～飛騨ブナ林山行	青年部
12～2月	厳冬期合宿	青年部
月2回	バリエーションクライミング、技術講習会 (実地)	アルパインクラブ
5月	GW合宿	アルパインクラブ
6月	広島支部交流 (三倉山)	アルパインクラブ
夏季	夏季合宿	アルパインクラブ
秋期	小川山合宿	アルパインクラブ・青年部
冬季	冬季合宿	アルパインクラブ
春季	春季合宿	アルパインクラブ
5月14日	支部通常総会	総務委員会
年6回 (隔月)	支部友ミーティング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行	支部友会
年間60回程度	支部定例山行	山行委員会
毎月1回	亀の会定例山行	亀の会
随時	自主山行 (日帰り+宿泊山行)	亀の会
随時	歩こう会の実施	亀の会
月1回	トレッキングクラブ 定例山行	トレッキングクラブ
随時	写真撮影山行	写真展実行委員会
1月14日	支部新年懇親会	総務委員会
4回/年	支部報第174号 175号 176号 177号	支部報編集委員会
4月	カナディアンロッキー (山田利行、永山虎之助)	海外登山委員会
9月	ヒマラヤフォレ (6645m) (山田利行、山本大貴、種石英典)	海外登山委員会
12月	冬山フェスタ	総務委員会
	支部報第174号 175号 176号 177号 (4回/年 発行)	支部報編集委員会

令和5年度役員

は前年からの変更。枠なしは重任

支部長	高橋玲司				
副支部長	今津英一朗	前田隆久	服田康宏		
監事	山田明美	佐野忠則			
常任評議員	尾上 昇				
評議員	大口瑛司	小川 務	梶田民雄	片岡泰彦	
	杉田 博	野呂邦彦	横田明信	天野俣明	

常務委員会	委員 長	常務委員会	委員 長
総務委員会	今津英一朗	支部交流委員会	前田隆久
会 計	奥山千佳	トレッキングクラブ	服田康宏
岳連担当	鈴木絵美子	アルパインクラブ	高橋玲司
支部友委員会	金谷正起	事業企画委員会	今津英一朗
山行委員会	稲葉真英	支部報編集委員会	星 一男
亀の会	村瀬恭平	青年部	荒木 岳
猿投の森づくりの会	和田豊司	登山学校運営委員会	服田康宏

常務委員会

登山学校同窓会 代表
 自然保護委員会
 図書委員会
 海外登山委員会
 ボランティア委員会
 支部刊行物編纂委員会
 遭難対策委員会

委員長

岡本英俊
 石原俊洋
 石田文男
 山田利行
 前田隆久
 星 一男
 高松信治

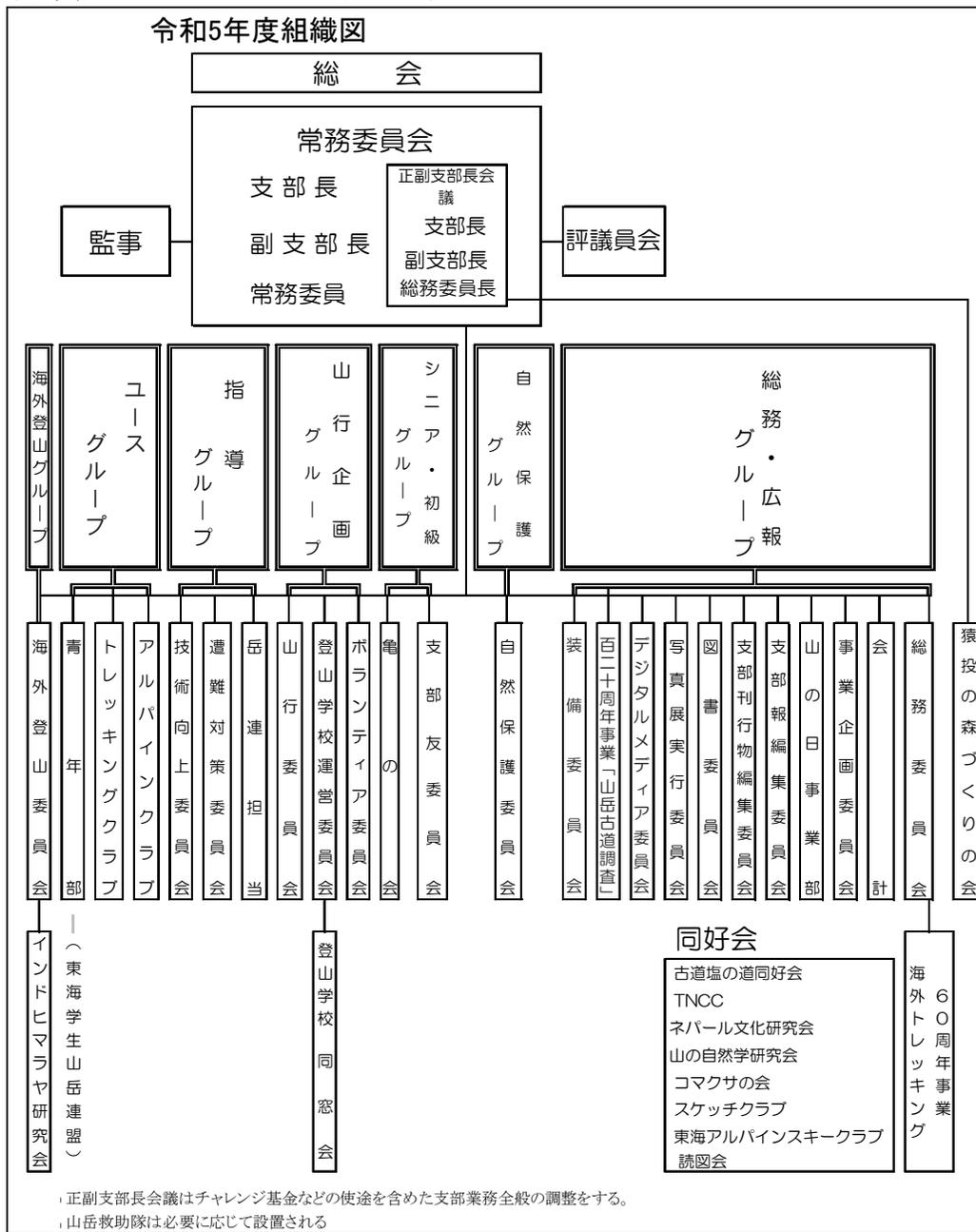
常務委員会

技術向上委員会
 写真展実行委員会
 デジタルメディア委員会
 東海学生山岳連盟
 120周年事業「山岳古道調査」
 装備委員会

委員長

清水克宏
 岩月邦文
 井上寛之
 鯉江知樹
 西山秀夫
 千葉泰丈

令和5年度組織図



ユースコーナー ①

東海支部アルパインクラブという選択肢

支部長 高橋 玲司

大学山岳部や社会人山岳会では当たり前の「ロープクライミング」。広島支部や本部ユースとの交流を機に提案をしたところ「最近やってる人が居ない、やれる人が居ない」などと全く集まらない。こんな危機感を感じる話が續出した。

創立60周年を迎えた東海支部は、アコンカグア南壁を皮切りに、マカルー、ガウリシヤンカール、雪蓮峰、クラウン、ウルタルII峰、K2、ローツェ南壁など、創始の志で東海地区に精鋭的なクライマーを輩出する土台を築いてきた。

昨今の登山ブームの中、会員数は350名を誇り会員数は全国でトップであるが、精鋭的なクライミングを行う会員が数人にとどまり激減している。この事は、当支部の精鋭的な『創始の志』を失うばかりではなく、スポーツとしての登山を衰退させる事でもある。青年部や、東海学生山岳連盟が活動の一端にあるが、どちらも名称からも年齢制限がある。

以上の観点から、積極的なアルパインクライミングを志す集団を作るという選択肢を見出した。時を同じくして山田利行君からも人材育成の提案が上がった。彼はカナダからオンライン形式で、私はアルパインの基礎的な入り口づくりとして考えた。機は熟したのである、今しかないという気持であった。

実際には、気持ちはあるが、指導者がいない、やれないなら有料講習会、社会人山岳会に行こう・・・など検討されて去って行った人も多い。

しかし、連れて行ってもらう登山と勘違いしたり、研修会講習会オタクともいふべき人たちはお断りしたい。座学で月4度しかないに貴重な土日の昼間を潰すような行為はしない。あくまで「実践登山が学習の場」でありたい。一步でも山に行くべきである。こんな内容で考えている。

内容

・ロープを使用した登攀行為全般（岩登り、フリークライミング、沢登り、アイスクライ



ミング) ・バリエーションルートやロングトレイル(コースタイム以下の行程)やトレーニングでトレイルランニングを取り入れる事もある。

・アルパインクライミング全般の実践山行を中心に行う。(研修会、座学も行うが、部分的な参加は不可)

条件

・月に3回、年間80日以上は、山(上記アルパイン登山)に入る覚悟のある方。クライミングジムやランニングなど恒常的に行える方。これは、年に数回参加では上達できないからである。

・登山口まで自力で到達できる方。交通手段は問わない。獲得標高2000m超え、12時間超えの登山もある。登山口に5時には立っていたい。

・年齢、経験は問わない。青年部、ユース、学生の域を超えた集団を考えている。

・指定した装備など揃えられる方。春夏秋冬バリエーションルートを目指す。

・支部員、支部友、東海学生山岳連盟に限る。支部員であるメリットでないと支部員になる意味がないから。行きたければ支部員になるという選択肢も重要。支部友制度を活用する事も良い。

目的

・精鋭的なアルパインクライマーの排出。
・支部員の登山レベルのスキルアップ。

・ 社会人山岳会への流出防止。

以上、単発の体験的に行うものではないことを理解の上青年部、東海学生山岳連盟に募集をかけたところ浜松、松阪、鈴鹿、岐阜、郡上までの広域からで、内訳は青年部経由が最も多く、学生、支部友や登山学校経由、本部のヒマラヤキャンプからやJAC東海を目指して入ってきた若手など20代から60代まで22人が集まった。

実際の山行は、標高差2000mを超える残雪アルプス日帰り山行や、御在所クライミングなど行った。しかし、行ってみるとまだまだ十分な山行とは言えず課題も多い。通常の記録行程には程遠く、社会人の山岳会の内容とも乖離がある。山行後感想文や報告をまとめ

る気はないが、必ず下山口では全員の口から感想の弁をもらっている。それでいいであろう。

東海支部に入り、自身の山も数々行って近年は山行企画の依頼があったが、やりたい山、私でなければいけない山、名古屋集合解散など自分自身悶々としてすべて断ってきた。逆に反感を買ったことも否めない。やっと、自分のやりたい山で恩返しができる組織を作ることが出来た感である。老若男女問わずアルパインクライミングやバリエーションクライミングの行える人財育成は、必ず支部の活性化に必要なパーツとなってくる。まだまだ、残念ながら普通の登山を行う日々先である。挑戦あるのみである。

海外登山委員会

未踏峰 フォレ北壁 登山計画

委員長 山田 利行

日本山岳会東海支部

未踏峰 フォレ北壁 登山計画書



フォレ(6645m 右が主峰)北面

写真提供：岩崎洋

1、計画概要

未踏峰のフォレに北面側から初登頂、双耳峰の縦走を目指す。

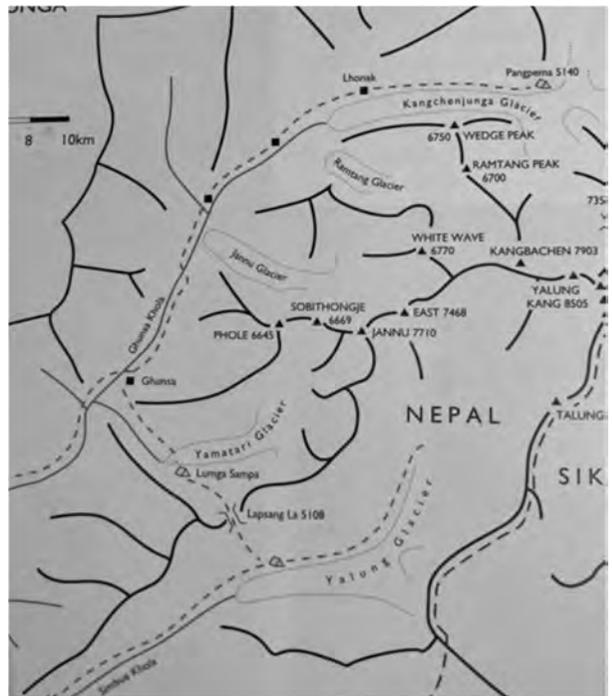
2、山域

ネパールヒマラヤ・カンチェンジュンガ地区

3、日程

2023年10月9日～11月19日(42日間)

4、概念図



写真中央のPHOLEが目指すピーク

5、メンバー

山田利行(38)東海支部・カナダカルガリー/山梨北杜市在住

登攀歴：2022年カンチュンナップ北西壁初

登攀、アマダブラムワンデイ
山本大貴(36)関西学院大学山岳会・
神奈川在住
登攀歴:2016年カンナチュゴ(6735m)南壁初
登攀、2018年セロ・キシウトワール(6155m)
北東壁新ルート
種石英典(36)東京労山MGC・埼玉在住
登攀歴:2022年3月グランドジョラス、アイ
ガー北壁、2022年アラスカ・ハンター北壁、
2022年ガッシャーブルム6峰(7004m)南東壁
6000mまで

6、現地会社
Kangri Trek(P)Ltd.
Naxal, Bhagwati, Bahal, KumariMarg,
Kathmandu, Nepal
TEL:00977-1-4414633,4414644
E-mail:kahangritrek@mos.com.np
代表Pasang K Sherpa
7、予算
3,750,000円(仮)一人当たり1,250,000円

海外登山委員会

カナディアンロッキー登山2023 報告

委員長 山田 利行

カナダに帰国して早々、私とパートナーの永山は片道20キロのスキーアプローチをこなし、マウントボール北東壁へと偵察に向かった。私自身三回目となる因縁の山である。壁は以前よりも沢山の雪と氷を纏っており、壁のコンディションは良さそうに見えた。偵察を終えて次の好天周期が訪れるのを待った。しかし、待てども待てども一向に好天がやってくることは無く、ただひたすらロッククライミングの日々であった。当初予定していた4月18日の期限を迎えてしまった。流石に何もトライせずに終わることは避けたかった。計画していたマウントボール、ホワイトホーンは未踏の壁であり、良いコンディションを掴むのは難しい。



ロッククライミングでお茶を濁す
マウントヤムナスカにて

今回の計画のもう一つの目的は、20代前半の若いアルパインクライマーと一緒に大きな壁を登ることであった。彼がカナディアンロッキーで大きな壁のアルパインを経験してもらうことは、私自身が未踏の壁



マウントボール北東壁 偵察時撮影

を登るよりも意義あることだと感じていた。その目的を果たすために、未踏の壁だけにこだわらず、既成の壁でアルパインクライミングをするプランも視野に入れることにした。

9年間のカナダ生活の中でこれほど春の天候と雪崩のコンディションが悪かったシーズンは知らない。ただでさえ雪崩の危険が高い乾燥した寒冷地においてこの天候では分が悪すぎる。初冬に積もった雪の弱層が降雪量の少なさで埋まらずにいつ雪崩のトリガーが引かれるのを待っている状況であった。この状況の中で壁に取り付くには最低でも4日以上好天が必要であった。4月27日以降に好天が訪れる予報が遂に訪れた。好天日数が足りなかった為、マウントボールでは無く、既成ルートであるマウントアンドロメダの北壁を目標としてその翌日を入山日に決めた。出発

前日、突然の雪崩による道路の閉鎖がカナダ国立公園局から通達された。今までマイナスの気温だったロッキーが20度以上気温が上がりどこもかしこも雪崩の巣窟と化してしまったのだ。気温上昇が落ち着いて、気温が下がれば良いコンディションが訪れることを期待し、5月初旬まで様子を見ることにした。しかし、待てども待てども一向に気温は下がらず、アバランチカナダの雪崩警報はずっと出っぱなしである。結局、1週間待ったが状況が好転することはなかった。1ヶ月間頑張った粘ったが、これ以上待っても良いコンディションを掴むことはできないと判断し、今回の計画は壁に取り付くこともできず失敗に終わった。

未踏のルート、若手クライマーの育成、そのどちらの目標も達成することは出来なかったのは残念だが、山には謙虚に安全第一で登りたいと思う。昨年のカンチェンナップでの成功のように山のコンディションが整っていたら、とても楽しいチャレンジができること

は知っている。若いパートナーと山の目標、登山のタクティクス、山の天気や雪崩などのコンディションについての議論は彼にとっても良い時間になったと思う。

応援して頂いた東海支部の皆様ありがとうございました。

メンバー

山田利行 (38) (カルガリー/日本・北杜市)
(日本山岳会東海支部)
永山虎之介 (24) (キャンモア/愛知県)
(信州大学学士山岳会)

収支表

登山支援金 10万円
支出 計 14万7700円
交通費 カルガリー～バンフ往復
二回 2万円
装備費 クランポン ダート 3万5200円、
ハーフロープ2本 5万8千円
食糧費 日本から乾燥食等 2万円
国立公園パス 1万4500円__

東海支部メルマガ登録のお願い

東海支部ではメルマガ「東海支部だより」を毎月1回発信して支部からの連絡、行事の案内や各委員会からのお知らせなどを支部員・支部友会員の皆さんに配信しています。また急ぎの連絡を臨時発信することもあります。

このメルマガは登録した希望者に配信されます。**ぜひ登録してください。**

登録は東海支部のホームページの右側メニュー「支部メルマガ読者登録」で簡単にできます。登録が出来ない場合は総務にご相談ください。

登録ページ URL : <http://jactokai.sakura.ne.jp/shibuhp/modules/pico02/index.php/content0004.html>

支部からのお知らせで～す。



60周年記念事業として「東海山岳12号」を発行しました。

書籍とCDがあります。

価格はどちらも3,000円+消費税です。

購入を希望される方は、支部刊行物編集委員会の委員に申し込みをお願いします。

メールでのお問い合わせは

khoshi@katch.ne.jp

星 一男までご連絡ください。



第7期登山学校開校

登山学校運営委員会委員長 服田 康宏

2017年に開校した登山学校は、7月8日に第7期がスタートする。今期のクラス編成は、昨年同様Aクラス（初級）が4つ、Bクラス（中級）が1つの計5クラス。各クラス受講生は6名で、そこに3～4名の支部員がつくという濃密な指導体制が最大の特徴だ。

Aクラスのテーマは、「自立した登山者になるための知識・技術の習得」である。山行は日帰りに限定し積雪期にはワカン、軽アイゼンを使用する。読図を中心に山でのルールやマナーに関する知識、正しい歩き方やセルフレスキューの基礎などを学習する。

Bクラスのテーマは「テント泊山行、雪山歩行の技術を学ぶ」とした。無雪期のテント泊山行や積雪期にはアイゼンを使った登山をおこなう。もちろんBクラスの受講生は、Aクラスの学習内容や体力などが身につけていることが前提となる。

現地講習（山行）は原則月1回で、さらに年間8回の机上講習が組まれている。気象講座や装備講座は遭難対策委員会との合同開催で、広く支部関係者に受講していただける講座となっている。

これまで6年間、登山学校は大きな事故もなく続けることができた。これもひとえに関係者にみなさんの並々ならぬご尽力のおかげである。第7期も安全登山を第一に、一人でも多くの自立した登山者を育成していきたいと思っている。



現地講習



主稜線への登り1100m

Aクラス カリキュラム

日程	I 行事・机上講習	II 現地講習
7月 I 8日(土)	第7期入校式 机上講習 夏山の気象	
8月 I 20日(日) II 27日(日)	机上講習 装備 夏山編 地図ソフトとスマホ・アプリ活用法	山の歩き方を学ぶ 猿投山・蕪山など
9月 I 2日(土) II 10日(日)	机上講習 登山の基礎知識 山岳遭難の現実	読図訓練1 鳩吹山・貝月山など
10月 II 14日(土) ～15日(日)		朝明ミーティング 鈴鹿の山
11月 I 26日(日) II 18日(土)	机上講習 装備 冬山編 読図	読図訓練2 屏風山・赤坂山など
12月 II 10日(日)		読図訓練3 宇連山・寧比曾岳など
1月 II 日程調整中		雪上訓練1 入道ヶ岳・賤ヶ岳など
2月 II 日程調整中		雪上訓練2 藤原岳・白本山など
3月 I 2日(土) II 日程調整中	机上講習 春山の気象	雪上(残雪)訓練3 大日ヶ岳・鷲鞍岳
4月 II 日程調整中		山城調整中
5月 II 日程調整中		山城調整中
6月 II 日程調整中		受講生企画
7月6日(土)	第7期修了式	

Bクラス カリキュラム

日程	I 行事・机上講習	II 現地講習
7月 I 8日(土)	第7期入校式 机上講習 夏山の気象	
8月 I 20日(日) II 26日(土)	机上講習 装備 夏山編 地図ソフトとスマホ・アプリ活用法	体力確認 烏帽子岳・経ヶ岳など
9月 I 2日(土) II 9日(土) ～10日(日)	机上講習 登山の基礎知識 山岳遭難の現実	テント泊山行1 八ヶ岳・北八ヶ岳など
10月 II 28日(土) ～29日(日)		テント泊山行2 鈴鹿の山など
11月 I 26日(日) II 19日(日)	机上講習 装備 冬山編 読図	読図山行 鈴鹿の山など
12月 II 23日(土)		雪上歩行1 猪臥山・位山など
1月 II 21日(日)		雪上歩行2 貝月山・蕪山など
2月 II 18日(日)		雪上歩行3 富士見台・南沢山など
3月 I 2日(土) II 17日(日)	机上講習 春山の気象	雪上歩行4 大日ヶ岳など
4月 II 21日(日)		読図山行 鈴鹿の山など
5月 II 19日(日)		長時間歩行 鈴鹿の山・各務原A P など
6月 II 日程調整中		受講生企画
7月6日(土)	第7期修了式	

トレッキングクラブ始動

トレッキングクラブ委員長 **服田 康宏**

2023年4月、ユースグループの再編に伴い東海ユースはトレッキングクラブと改称、新たなスタートを切ることになった。東海ユースは2013年1月、中日文化センター「目指せ！山ガール講座」受講生の中から、自分たちで山を楽しみたいという思いのメンバーが集まって設立された。その後10年が経ち、今回大きな転機を迎えることになった。

最も大きな変更は、入会時の年齢の引き上げである。今までは45歳までであったが、59歳までとした。これにより、今まで以上に多くの支部員のみなさんに入会していただ

けるようになった。また改称を機に下記の活動理念を制定した。

1. 仲間をつくり、仲間とともに山を楽しむ
2. 自立した登山者となり、全員で会の運営を支える
3. 技術・知識の習得に励み、安全登山につとめる

現在、指導員を含め17名の会員が月1回の定例山行を中心に活動している。興味のある方は、ぜひ支部ホームページのトレッキングクラブのサイトからお問い合わせ下さい。

猿投の森づくりの会総会

猿投の森づくりの会代表 和田 豊司

令和5年度総会が5月27日(土)定例作業の後、高橋会長をはじめ26名が出席して行われた。総会審議の後には懇親会が開かれた。

活動報告、今年度の計画、予算などすべての議案が提案通り承認された。年度当初会員数65名・法人会員2社、繰越金を除く経費164万円の予算である。

県有林やまじの森における森づくり活動は、県との第7次協定に基づいて、過去からの実績を踏まえ、生物多様性に富んだ環境林づくりや都市近郊の保健保安林として、また、水源涵養、土砂流出防備の機能を高めていくため引き続き活動を行っていく。

一方、山桜フィールドの持つ森のめぐみを楽しめる基地としての機能を利用して、教育や日本山岳会東海支部との交流の場として利用していく。さらに、平成25年度から行っている東大赤津研究林の間伐作業を継続実施する中で放置された人工林問題を考える研修の場とする。これまでも実施してきた“なごや環境大学”や“せと環境塾”の講座による



総会の審議

教育や調査・研修を実施する。イベント事業として森の探検隊、法人会員デーなどを実施する。年度内新規イベントについては随時運営委員会に諮り推進する。

また、会員が環境、自然、生物多様、SDGs等の科学的基礎知識を習得すると共に森づくり活動に関する意見交換の場としての「わいがや講座」、夏季の高気温時の熱中症対策で作業を中止し緑陰講座を研修の場として開催する。

第9回夏山フェスタの開催

総務委員会委員長 今津 英一郎

九回夏山フェスタが次のように開催された。

日時：2023年6月3日(土)、4日(日)

場所：ウインク愛知

主催：夏山フェスタ実行委員会（日本山岳ガイド協会、中部経済新聞、日本山岳会東海支部）

山小屋、登山用具メーカー、行政機関が夏山に関する展示を行いました。

今回は東海支部からの3名の支部員が講演者として参加し、安全登山に必要な知識、意識啓蒙と、若手の長期縦走が紹介されました。

小古真也さんが「山岳遭難の現状」、鈴木慎吾さんは「登山におけるスマホの活用」、そして草野駿希さんが「孤高の北アルプス全山無補給縦走」の講演でした。

開会中入場者は5,165名であり、会場は大変賑わいました。

東海支部からは2日とも15名程度のスタッフが運営に協力しました。更に、支部友会、トレッキングクラブ、アルパインクラブが新入会員



満席のセミナー

の勧誘も行いました。ご協力いただいた支部員各位におかれては、感謝・御礼申し上げます。

また、3日(土)はメイントーカーとして世界的登山家の平井和也氏が登壇し、多数の観客が聴講しました。閉会後は東海支部反省会(栄リビエール)へ平出氏に参加いただき、東海支部若手へ貴重なお話もしていただきました。

技術向上委員会

雪上訓練「イグルー講習会」に参加して

支部員 野寄 あかね

技術向上委員会では「イグルー講習会」を3月18, 19日旧和田山牧場跡にて予定したが、悪天候のため19日大日岳にて日帰りで行った。

講師は「冒険登山のすすめ」の著者でNHKカメラマンの米山 悟氏にお願いして7名が受講された。

感想～野寄あかね

雪山をテントなしでより軽量に・自在に楽しむ技術、イグルー (igloo: カナダやアラスカの先住民が作って住んでいた雪のブロックのドーム状の家)の講習会に参加した。講師は「イグルスキー」の異名を持つ、その第一人者米山悟氏。大日ヶ岳日帰りとなったが、天気も上々、心も軽くイグルー製作地へ向かった。

到着後、まず米山講師から解説お手本を見せていただいた。

- ①雪上にトレンチを作りがてら圧雪ブロックを作り、壁一段目として脇に置く。
 - ②トレンチの幅を広げるようにブロックを切り出し、壁一段目を作るべく周りに並べていく。
 - ③作業できるくらいの大さの四角い穴になったら、更に掘り下げるように①②を行いつつ、壁二段目を内側に狭めながらブロックを積んでいく。
 - ④屋根を作っていくべく、掘り下げた床面や壁面から細長い角柱にブロックを切り出し、壁→屋根に狭めながら積んでいく。
 - ⑤てっぺんを雪板で閉じて完成。
- 書き出してみると、何か足りない気もするが、ざっくり上記のような作り方であった。



米山講師の講習・お手本



米山講師の講習

製作の1番のポイントは、いかにブロックを切り出すかである。2番目のポイントは、いかに屋根を作るかである(と思う)。3番目は使いの良いのこぎりである(実感)。

注意点はいろいろあったが、私が実地に感じたのは特に次の点であった。

・ブロックの切り出しは、ブロックを取り出す側に開き味のハの字に、下層・横層に次のブロックを切り出すことを念頭に必要以上に切り込まないように、切り出す。

・壁→屋根は、細長ブロックを、内側に攻め気味に積んでいく。案内雪は接着し安定する。また、日和って積んでいると、屋根が高くなりすぎて手が届かない。

さて、自分のイグルーを製作し、他の人のお宅を訪問すると、同じ説明を聞いて作った割に様子はさまざまであった。私のイグルーは、自分の腕力と身長を考え弱気だったため、ブロックは小さめ、細長ブロックは角柱というより板で、隙間多く(後で埋める)、かろうじて手の届く高さでとんがり屋根のてっぺんを閉じた、単独型である。他の人のイグルーはというと、建材が大振りて堅牢だったり、ころころブロックでほぼ成形されていたり、低い位置で屋根が閉じられ中を掘り広げてあったり、隣りとならないで複数部屋になっていたり、いろいろで、作ったそばから我が家のリフォームを触発された。

そんな風にいろいろ作り様はあるが、骨組み的にイグルーを作って上からツェルトをかぶせるとか、同様に壁だけ作ってタープをかぶせ

て屋根とするとか、雪以外のものを使うこともでき、要はおうちのなものを作るということかと思う。イグルーの真の醍醐味はイグルーで泊まることにあると睨んでいる。

今回の講習報告は以上であるが、イグルー製作については、ネットで検索して見ていただくのがよいと思う。きっとやってみたくなる。

<https://igloosky.com/2023/03/19/training-session-jac-tokai/>

技術向上委員会委員長 清水 克宏



受講者全員にて

TOPICS

平出、萩原の両氏が来訪（夏山フェスティバル）

今年も夏山フェスティバルの東海支部のブースにセミナーの講師を務めた著名な登山家の二人が訪れてくれました。平出和也さんと萩原浩司さんです。ブースでは、二人を囲んで談笑の輪が広がりました。

平出さんは、2019年にカラコルムのラカポシ(7788m)の未踏の南面から登頂して3度目のピオレドール賞を受賞しています。3度の受賞は平出さんだけで、世界の最強クライマーとして名を馳せています。今夏は、同じくカラコルムの峻峰ティリッチミール(7708m)の未踏のルートに挑みます。皆んなで成功を祈りましょう。

萩原さんは、山の本の出版社「山と溪谷社」の元編集長で数多くのテレビ番組に出演、大活躍しています。ニックネームは、文字通り「編集長」で、その人柄の良さで人気を博しています。

青山学院大学山岳部出身、元同大監督や日本山岳会の理事も務められています。また、平出さん受賞のピオレドール賞の審査員も経験されていて、国内も含め、ヒマラヤなど登山経験も豊富です。(N. O.)



※ピオレドール賞 (フランス語：金の ピッケル賞)

登山界のアカデミー賞と呼ばれ、対象期間(一年)の中で、最も優れた記録を残した登山家に贈られる賞。登山誌「モンターニュ」と「グループ・ドゥ・オート・モンターニュ」が主宰して、1991年に創設。

平出氏(中央右)、萩原氏(中央左)を囲んで。平出氏を挟んで支部長。
左端には、富士山2000回登頂男、實川氏の顔も見られる。

山岳古道調査委員会の報告(4) ～尾鷲道の踏査～

支部古道調査委員会委員長 西山 秀夫

昨年8月20日から21日に尾鷲辻からマブシ嶺往復を4名で試みたが雨天で中途引き返した。その後機会を伺うも自身の病気や委員の骨折などがあり今年度に持ち越しとなった。大台ヶ原ドライブウェイは昨年12月から4月18日まで休業。

この地域はGWでもヤマヒルが多いこと、昨年は熊の被害が二件報告されていて行く機会が限られた。山行委員会のHPに同行者を募ったが反応はなく、GWの中頃に3日以上のお晴れを見込んで単独で実施した。久々のツエルト泊山行でザックは約11kgとなった。

新緑の大台ヶ原へ

5/1 近鉄特急の大阪行きアーバンライナーの5時58分発の一番電車に乗るために、最寄りの植田駅始発では間に合わないで中区丸内の事務所に泊まった。朝5時過ぎに出て久屋大通駅から5時35分に乗車、40分に着く。4/30に桜通線名古屋駅の中改札口から近鉄の地下改札口への近道もチェックしておいた。切符を買って車内に入った。4070円。伊勢路、大和路を駆け抜けて近鉄大和八木駅に定刻通りに着く。奈良交通のバス乗り場で8:15発の大台ヶ原行きバスを待つ。道の駅杉の湯で休憩中に柿の葉寿司を調達。新伯母峰トンネルをくぐって大峰山脈の登山口の和佐又山キャンプ場で降車。このバスは大峰山脈の山上ヶ岳への縦走にも利用できるわけだ。新伯母峰トンネルを戻り大台ヶ原ドライブウェイに行く。

伯母峰峠を越えて上北山村に来た途端に新緑に彩られた自然に魅了された。伯母峰峠の標高は991m、そこから比高450mもの高原に来るとまた冬景色に戻る。針葉樹の中に少し落葉樹があるが芽吹いたばかりである。大台ヶ原ビジターセンターのある山上広場は標高1570m程度。バスは定刻通りに到着。11:20前後。ここで登山届を出す。ベンチでパッキングを見直し装備の点検。中食。12時少し前に出発。山頂は昨年8月に登ったので省略。尾鷲辻への水平の道を急ぐ。



尾鷲辻にある東屋

未知の尾鷲道を歩く

尾鷲辻に着いた。昨年8月は雨の中到着しここでカッパを着た。尾鷲道を少しだけ覗いた。今日は好天に恵まれた。40年前紀勢線に「名古屋23:58発、紀伊勝浦行夜行急行「紀州5号」というのがあった頃、尾鷲駅から尾鷲道の計画を立てては断念してきた。紀勢線の夜行もすでに1984年に廃止。2005年発刊の『新日本山岳誌』に登山の対象ではない栃山、保色山等を取りあげた。取材山行で尾鷲道の最新の情報を知った。マブシ嶺が名古屋から前夜発で往復できると知って2017.12.10に登った。ブログに「木立は落葉して見通しが良い。最初の道標は古和谷分岐である。ここからが古来からの尾鷲道である。下山路として今も歩けるのかどうかは不明だ。先へ進む。数分で又口辻だ。」と書いた。

今回は高齢の自分には22kmと長大な尾鷲道を踏破する最後の機会になるかも知れない。

堂倉山も往復したかったがエネルギー温存のために断念。別の日に山上から往復する機会を狙う。堂倉山の南の鞍部は平らで一晩過ごしたい。1414mの無名の山からマブシ嶺までは1400mの稜線の西側(上北山村内)をアップダウンの少ない道になっている。ところどころに山抜け(蛇抜け)の痕が痛々しい。そこだけは尾鷲道も寸断されるからう回路を設けてある。地元の篤志家グループのお陰で

迷うことはない。



ホンシャクナゲの花

山の花を楽しむ

ホンシャクナゲの開花期に巡り合い、淡いピンク、濃いピンク色の花が美しい。花に酔っていると下から5名のパーティに出会った。マブシ嶺の往復だった。今日人に出会ったのはこの組だけだった。1402mの独立標高点に行く踏み跡があるが道標は左折となる。下るだけだと思ったが1450mの無名のコブに登った。地倉山の道標があった。ちらっと平らなビバークの適地を見たが熊の生息域との警告もある。下り気味の道ながら少しは登り返す。15:30頃、見覚えのあるマブシ嶺に着いた。砂礫の殺風景な平は大峰山脈の展望を欲しいままに楽しめる。大峰南部の釈迦ヶ岳の鋭鋒は既登ゆえにランドマークになっている。

マブシ嶺でビバーク

さてビバーク予定地の木組峠、又は新木組峠まではまだ時間がかかる。ビバーク地の適地ではないがマブシ嶺にした。雑木林に近い所の小さな凹地にツェルト張った。ザックの軽量化のために支柱は2本のストックで代用した。立木の枝、木の根っこ、石などに張り綱を結ぶ。これで今夜の寝処が完成。同じくシュラフも止めて羽毛のジャケットと羽毛ズボンで冷えに備えた。加えてシュラフカバーでOK。シュラフは一度潜ってしまうと用足しに外に出るのが億劫になる。羽毛服なら着たまま用足しできる。

青嵐のビバーク

さて、午後6時頃までは大峰山脈が見えていたが、簡単な夕食を済ませて寝ていると外が風で騒がしくなってきた。なんだこの風は？とスマホで尾鷲市の天気情報を見ると晴天で降雨率は10%である。春山特有の天気急変だろう。俳句の季語にある青嵐(あおあらし、

せいらん)は「青々とした草木や野原の上を吹き渡っていく風を青嵐(あおあらし)と言います。嵐の字が使われているように、やや強く吹く風です。上空に寒気が流れ込むと突風やひょうが降ることもあり、青嵐となります。5月は全般に快適な季節ではありますが、寒気の流入には注意が必要です。」と説明される。遠くで春雷も聞こえて来た。強風でフライが飛ばされ、ツェルトがなぎ倒されるような環境に一句作る心の余裕はない。只一人、まんじりともしない山の夜を過ごした。時間の経過とともに冷えてくる。ツェルト内の空間は外の冷氣から自分を守る大切な空間である。



合羽を着て外気に晒されると低体温症になるから登山の装備に必須となった。ザックの中を空けて足を突っこんで保温につとめた。

新木組峠へ

5/2 尾鷲市の夜明けは5時6分。少し前から東の空が朝焼けになった。出発予定の午前5時の1時間前に起きてガスコンロでお湯を沸かして熱いお茶をすする。朝飯の柿の葉寿司も食べるだけ食う。遠くから小鳥の鳴き声が聞こえる。風も小康状態だ。外に出てツェルトを撤収。パッキングする。山頂に戻ると地面が凍結していた。昨日は泥だったのに一晩で冷氣に晒されて霜柱が立っている。寒い訳である。

5時過ぎにマブシ嶺を発つ。比高200mほど下ると平らな雑木林になる。風はほとんど吹いてこない。穏やかである。本当はここで幕営したかった。しかし適地はすべて熊の生息地と重なる。昨夜も蚊取り線香を焚いて熊に知らせた。青嵐で熊も落ち着かなかっただろう。

熊鈴を鳴らしながら巡礼者のように素敵な自然林の中を歩く。木組峠に着く。ここからまた若干の登りになる。登りついたところから光山の分岐を後にする。1250m前後のコブを上下しながら新木組峠に着いた。ここでも水を飲み、若干は食べた。昨年5月中頃に仲間と訪れた際は木組峠の稜線道を登り帰りは尾鷲道（リスク大）を通過した。反対に帰路は1297.6mに登って又口辻に下りた。これが松浦武四郎らが通った道だった。

古和谷分岐へ

今回は横断的な尾鷲道に行く。落葉が多くふわっと重なっている。ザックが重いので転滑落には要注意だ。靴先で落葉に隠れた石ころを探りながら歩いた。神明水は流水があった。3回目でやっと水の流れを見た。しかし今日は寒いし水はあるので通過。中間地点まで来たところで左足に痙攣が走った。ヤバいな、



NTRCグループが数年かけて整備した道標

と小休止し、芍薬甘草湯を水とともに流し込む。苦くもなく少し甘めのながら薬効は即効だ。再び危険な横断道歩く。篤志家らが張ってくれたフィックスロープが非常にありがたい。その内に又口辻、そして古和谷分岐に着いた。

古和谷へ下る

9:30.小休止の後、未踏の古和谷道に下る。杉や桧の植林内のよく歩かれている感じの尾根道が続く。

分岐から張り出した尾根の1053mの手前の鞍部から谷へ急降下。ここでも中間地点でまた痙攣が走った。芍薬甘草湯を服用して治まるのを待つ。なるだけゆっくりと下り、よう



NTRCの道標・古和谷は右へ、栃山林道は左へ行くやく古和谷の流れを眼下に見たときはほっとした。左岸の植林内に細々とした山路が続く。思った以上に歩きやすい感じだ。後ろに人気を感じて振り返ると半袖の若い登山者が追い付いてきた。しばし情報交換して先に行ってもらおう。今日尾鷲辻から下ってきてもう追いつかれたのである。一体何時に出発したんだろう。ヤマッパーらしい。あつという間に視野から消えた。韋駄天とは彼みたいな男をいうのだろう。そろそろ足を労わりながら重荷を担ぐより、寝具、食料など省いて軽量にして駆け抜けるのも一案である。渡渉地点でちょうど昼時になり、ザックを下ろした。先を急ぎたい気持ちより山に浸る方に重きを置いた。河原でガスコンロをだし、お湯を沸かし、お茶を楽しみ、カップ麺を食った。



森林軌道の残骸

その後石飛で右岸に渡る。左岸より右岸の方が悪い。森林軌道の跡らしいが、橋が落ちたところは高巻きする。目印はあるものの上下、左右に留意した。河原に近い箇所はレールの残骸がある。朽ちた栈橋をいくつか恐る恐るわたると尾鷲



古和谷林道の終点の尾鷲道の道標

道の登山口は近い。13:40に車道に出た。ここから長い長い林道歩きだ。県道に着くまで2時間はかかった。

思いがけない親切に深謝

計画では2時30分に尾鷲駅到着だったが、到底無理。昨年泊った民宿に電話しようとしたが圏外だった。その内、後続がまた一人とトレランが下山してきた。どうしようか、と考えていると釣り師が親切にも駅まで乗せてあげると申出があった。渡りに船と便乗させてもらった。名古屋へ帰る旨話すと鈴鹿市在住なので自宅に近い白子駅まで乗せてもらった。感謝感謝であった。

尾鷲道の歴史

教祖の古川崇は1899(明治32)年に6年の歳月をかけてナゴヤ谷に福寿大台教会が完成。

「尾鷲道」は、尾鷲の林業家・土井與八郎が大台教会開殿後、紀州の信者の参詣道として1915(大正4)年に寄進され、大台ヶ原への登山路として尾鷲の人々に利用された。

登山者との関わり

古和谷の林業史によると大正時代は木馬道、森林鉄道は1910年から1950年まで使われた。1928(昭和3)年に6kmの古和谷林道が開通。1934(昭和9)年の大阪朝日新聞の紀行によるとクチスボダムまでは登山バスがあり信者の参詣道、登山道として利用された。(参考:歩人倶楽部・代表金丸勝美の竜辻の登山記録)

1961(昭和36)年に大台ヶ原ドライブウェイが開通すると尾鷲道も荒廃し廃道になった。1992(平成4)年に林道栃山木組線が開通。登山口の地蔵峠に近くなりマブシ嶺への往復日帰り登山が可能になった。

2020年7月の紀北ニュースに拠ると「紀北町内外の有志でつくる登山道整備ボランティア

参考データ



ヤマップのGPSの軌跡22 km、14時間超かかった。尾鷲駅までは更に4 km 歩く。

大台ヶ原山 尾鷲道 その1 尾鷲辻～又口辻～古和谷林道終点

<https://amaimonoko.at-ninja.jp/s-mtdata/ki/odai-owase/1.htm>

グループNTRC(野中太郎代表、20人)は、大台ヶ原と紀北町・尾鷲市を結ぶ古道「尾鷲道」の整備に取り組んでいる。同グループは2012年に発足し、今は使われなくなった登山道の発掘を目的に6年前から尾鷲道を整備。「尾鷲道は江戸前期、奈良県北山地方に物資を運ぶ生活道(塩の道)として栄え、明治後期は大台ヶ原・大台教会への参詣道にもなった。戦後は大台ヶ原ドライブウェイが開通する1960年代まで大台ヶ原登山のメインルートだった。」

尾鷲道と松浦武四郎の通った道を色違いのテープで分類し、分岐には木製の道標の設置、山抜けで危険なガレ場にはフィックスロープを張って登山者の安全対策にも配慮している。これが一般に知られるところとなり、近年は尾鷲辻から尾鷲駅まで下る登山者の記録が年々増えつつある。

山書蒐集夜話（その5）

支部員 安藤 忠夫

集めた本を読むわけがない
“読むに迫いつく蔵書家なし”の箴言がある。よく言ったものだと思う。

勿論、私のことではない。蔵書家の末席にさえも立っていない。ただ自分も、山や釣りの本をけっこう多量に蒐集し、それなりに目を通しての方だとは思っている。が、蒐めた本のうち、実際にどれほど読んだのだろうか？大まかながら頁数、活字の数を繰ってみると、そら恐ろしいほど目を通していないことが判る。ビックリする。それでも、若い頃は、定年を迎えたら溜め込んだ本を片っ端から読むつもりでいたが、なかなか思うようにいかないのが現実である。

だが最近、『それでも古書を買いました』と云う本を読んでいて、表題の言葉を目にし、いくらかなりとも助太刀を得た気分になれたので、それに関わる想いを一筆草してみる。

本書の著者は鹿島 茂氏。出版当時の2003年ころは東京・共立女子大学文芸学部教授であり、フランス文化の研究者とある。と同時に洋古書コレクターでもあるようだ。であるのだから、私のような市井の民とは同列にはできない。

が、本書の中で「河盛好蔵氏から“研究者というものは買った本が1ページでも役にたったなら、それでよしとしなければなりませんよ。最初から最後まで全部役にたつような本だけを集めようなんて、そんなケチな根性では、研究者はつとまりません。”という話をうかがった」と紹介している。そして洋古書コレクターとしてならば「本を集めるのに時間がかかって、集めた本を読むための時間がないからだ」と記している。

さらに極めつき、「フランス人の古書コレクターなら、私に向かってこういって違いない。“驚いたな。君は集めた本を読んでいる



小島烏水著『書齋の岳人』100部本

のかい？」と」

ここで述べているのは、研究者が、自己の研究テーマを極めるための資料として古書を集める時のことであり、欧米の資産家のコレクターがお金にとめをつけず、古書蒐集にしのぎをけずる話である。

私は、古書コレクターではない。あくまで実践者として、山登りや釣りのために読むのであって、同じような事態に出くわした時、著者が何を考え、どう行動し、何を記そうとしたのかを識るためである。だから、前述の人々と同じように扱ってほしくはない。

では、私の場合、実態はどの程度だろうか。まず、身近で、日頃から人となりを知っている人、山仲間の記したものは、まあ大筋全頁にわたって目を通してはいるはずである。また、著者を直接知らなくても、興味あるテーマならば、やっぱり読みきれ。軽いもので、中には購入した日の翌朝までに読了するものも時々ある。

ところが、全集物になるといけない。また、今は読めなくても、将来、暇ができた段階で腰を落ち着けて読もう、などと先延ばしをしておいたものもある。更に、古典もの、いわゆる名著と云われるものは、なんだか時代遅れ

がして、苦痛を覚えるものもある。そんなものより、もっと興味のある本がすぐ脇に山積みしてあるのだから。

結局、全体の一割程度、ひいき目に見積もっても二割を越えているとは思われないのである。

『書齋の岳人』について

小島烏水には『書齋の岳人』という、稀覯本とか下手趣味本といわれる山の本がある。山書といっても、内容的には著者在米時代および帰国後の見聞記、随想、古本漁りの話、浮世絵にまつわる話、内外山水記など多方面にわたっていて、山岳書の部類に入るかどうか？

表紙の背に簞虫の簞を縫い合わせ、ヒラには南洋材を板に挽いたものを使っている。昭和9年8月に書物展望社から発行され、装幀者は斎藤昌三である。定価3円30銭の署名入り限定100部本のほかに、装幀も発行日も同一の810部本（2円80銭）がある。100部本が天金仕立てであること、本文用紙がいくらか異なること以外は総て同じつくりのようだ。

その『書齋の岳人』が、名古屋市中区上前津の「つたや」にあった。「つたや」は古書店だから売り物であることは当然である。いつ頃から店内のガラスケースに納まっているのか定かでないが、1988年の春にはすでにあつた。それより大分前に見掛けたという仲間もいるから、おそらく5年ぐらいは売れなかったことになる。

私はこの山書について、内容的にはあまり興味がない。ところが、その粋な書名と下手趣味といわれる簞虫装幀の奇抜さから、心情的には無視できないでいた。

1988年の秋頃から次の年の春頃のこと。「つたや」へ行くたびにガラスケースから取り出して、購入すべきかどうか思い悩んでいた。売値は5万円だった。函に痛みがあるとの話だが、すでに補修されていたのか、キズの程度はよく分からなかった。迷いながらも買うのを思い止まっていた。売値の5万円に見合う価値が見いだされなかったからである。当時、同じくガラスケースに収まっていた田部重治の『忘れえぬ山旅』の特装100部本は買った。

1990年6月、東京へ行った。本郷の森井書店に立ち寄ると『書齋の岳人』があつて、30万

円と記されてあつた。100部本である。高橋啓介の『山の限定本』には、1977年で12万円、1980年12月では22万円だったと紹介されているから、当時の価格はそんなものだろう。その日、この山書の実態についてすっかり失念していた。名古屋の「つたや」にも同じ本がある、と思った。しめた！と思いつつも、その一方で半信半疑のまま帰宅した。

東京から帰って数日後、5万円を持って「つたや」へ出掛けた。すでに何度も見知った本である。100部本のほかに810部本があることは記憶の外であつた。ところが再度、現実に本を手にとってみると、30万円はおろか5万円だって惜しいのである。そんなに価値ある山書とはどうしても思えない。結局、思い止まって買うのをやめてしまった。帰宅して調べ直し、ようやく普及本だということが分かつた。

その後、一時ウインドケースから件の本が姿を消してしまった。山書の蒐集仲間か、あるいは私たちの知らない人か、いずれにしても誰かが買ってしまった、と思った。いくらか慌てた。ところが、次に訪れたときには再び姿を見せていた。今度は5万5000円となつていた。

翌1991年の秋になって、やっぱり『書齋の岳人』をわが書架仲間に加えてやりたいと思ひ直すようになった。結局、4万5000円で東京から買うことにした。本の真の価値を認めたわけではない。

ところで、その4万5000円で東京から購入して少し過ぎた頃、神戸の間島一雄書店から古書目録が送られてきた。その中に『書齋の岳人』があり、美本で1万5000円と記されてあるではないか。さらに格段に安い。再び、落ち着いた気分である。「まあ、重複しても構うものか。2冊で6万円、1冊あたりに直せば3万円となるではないか」と、覚悟を決めて電話を入れた。

結局、これには函のないことが分かつて断念したが、それにしても、本体より外函の方に倍もの価値がある、とはどういうことか。

委員会報告

【亀の会】

2023年度 亀の会山行計画
 月例山行 毎月1回実施
 自主企画山行 年間4~5回実施
 歩こう会 年間4~5回実施 (OB/OG、家族・知人も参加を呼び掛ける)

4月以降の山行計画

- ・4/1 (土) 歩こう会 五条川花見と親睦会 (名鉄電車) 担当: 浅井 申込み 20名
- ・4/13 (木) 3月祝会 (菰野富士) 雨天順延で4/13に山行実施 担当: 加藤 19名
- ・4/15 (土) 自主山行 宮路山の霧島つつじを愛でる (名鉄電車) 担当: 石田 6名
- ・4/22 (土) 月例山行 矢田丘陵と斑鳩の里を歩く (マイクロバス) 担当: 熊谷 16名
- ・4/13 (木) お祝い山行 菰野富士 (マイクロバス・近鉄電車) 担当: 加藤(守) 29名
- ・5月・5/1 (月) の自主山行「鳩吹山～善師野コース」担当: 浅井 8名
- ・5/27 (土) 月例 多度山・石津御嶽 (近鉄電車) 担当: 村瀬申し込み5/15まで

*月例山行

6月24日蛇峠山 7月日程. 行先伊吹山予定

その他

- *月例山行は原則として第2土曜日
- *救急対応時の留意事項 (持病. 薬. アレルギー等) の個人情報部分の更新のお願い
- *入会者増員に向けて亀の会入会資格年齢の引き下げ (65歳→60歳) を申請する
- *お一亀の会連絡担当は引き続きお願いしたい
- *月例・自主山行共に計画提案はできるだけ早く運営委員会に提示すること

LINE 活用について

*今現在の亀の会のラインは交流の場と化し

杉山基金 会計報告 2023年度

日付	項目	入金	出金	残金
	令和4年10月末	¥100,000		¥100,000
令和4年10月27日	一乗城山補填金		¥3,220	¥96,780
令和5年2月21日	東山動物園		¥100	¥96,680
令和5年4月13日	菰野富士(マイクロバス+ガソリン代)		¥35,000	¥61,680
	菰野富士(高速代)		¥4,130	¥57,550
計		¥100,000	¥42,450	¥57,550

* 亀の会 会員 杉山 雄彦氏よりの寄付金を基に設立

亀の会代表 村瀬 恭平

ていて、必要な情報が埋もれてしまう懸念がある。このため今後『運営委員のみ』の利用場として新たなLINEグループを作成する。この場は「下山報告等緊急時使用」と、「委員会連絡ツール」としてのみの使用とする。

今ある亀の会LINEは会員のみの利用とし、会員の交流の場として活用していく。

*発信時間帯については常識的な利用を行う。
 *委員会ペーパーレスに向けて資料添付等スムーズに行うためLINE・パソコン活用のための講習会を行う。

第1回は6月14日(水)14時~16時、於:支部ルーム、講師:鈴木慎吾副委員長、対象:運営委員、テーマ:LINEを中心にしたスマホの使い方。新たに『運営委員のみ』のLINEグループを作成する。

亀の会会員の年齢構成の推移

(2023年は3月31日現在 満年齢)
 単位:人 ※は視覚障がい者(内数)

年齢	2011年 1月	2017年 1月	2023年 3月
最高齢者	83歳	86歳	90歳
85歳以上	0	1	6
80歳~84歳	2	9	12
79歳~75歳	21	12	18※2
74歳~70歳	14	23	7
70歳未満	20	11※3	9※2
計	57	56	52※4

亀の会 会員数 入会8名 退会6名
 2023年5月23日現在 会員数52名

山行委員会だより

●支部山行に参加して

日頃からホームページの山行一覧をこまめに見て支部山行へ参加しています。

今回は、池戸リーダーによる奥三河の「上臈岩・百畳岩」山行へ参加しました。

歩き始める前にリーダーから「巻道を行かず岩を歩く」「チェックポイントでは位置の確認、地図読みをする」を目標として伝えられました。

確かに巻道はいくつかあり無意識に楽の方を選ぶのか足がそっちへ行ってしまう、その度に岩の方へ行くよう促されました。岩歩きが少し苦手なので百畳岩へ出た時には、不安になりましたが、落ち着いて一歩ずつ進めば滑る事もなく、楽しく歩く事ができました。そして、下山の後半に沢まで降りその先へ行けばゴールと思いきや、リーダーから「楽はしない。あえて厳しい道を行きます」と、登り返す道を選び歩きました。

疲れはしましたが清々しい達成感があり、これからも楽な方を選ばず 厳しさも楽しみたいと思います。

(中島 美枝)



●積雪期のテント泊と雪上訓練

まだ雪残る岐阜県の大日ヶ岳において 3月11・12日、雪上訓練と雪上テント泊体験に参加した。

1日目は、テントを設営・雪洞製作を行った。テント設営にあたり、レンガ状の塊りを掘り、周りに積み重ねると防風壁になった。更に床面を踏み固め、テントを張る場所がやっとできた。

5人がかりで2か所設営したが、体が汗ばむほどであった。

2日目は雪上訓練を実施した。ピッケルを使用した滑落停止、ロープを使用した滑落防止の確保について教えていただいた。

滑落停止練習では、ピッケルで頭・顔を傷つけないこと、とにかくピッケルのどこかを雪面に刺して初速を抑えることを指導していただいた。しかし実際にやってみると脇が締められず肘が伸びることが原因でなかなか制動ができなかった。何度か練習を重ね少し自信をもつことができた。

また雪山装備に大切なビーコン・ゾンデ棒の使い方や、弱層テストのやり方・判定方法も指導していただいた。

雪山は、山容がとても美しくとても気持ちが清らかになる。何度も登ってみたい気持ちに駆り立てられる。しかし、死と隣り合わせの危険がたくさんある。冬山に必要な装備をすることはもちろん、危険に晒されたときにどのような技術、対処法が必要であるかを知り、体得しておかなければ冬山に足を踏み入れてはいけないことを強く感じた。多くのことをご指導していただき感謝申し上げます。

(伊与田 玲子)



【ボランティア委員会】

SON 愛知「山岳会と一緒に登山」

2023年春はコロナも一段落して、3事業を復活させたが、雨天のため「春のブラインド登山」と「春のタンポポ登山」は中止となった。タンポポ登山に関しては、仕切り直して近いうちに実施する予定だ。唯一、知的障がい者とのSON 愛知「山岳会と一緒に登山」が、晴天の5月27日(土)、三河・三ヶ根山で実施された。

今回は、アスリート4名(当日、体調不良で1名が欠席)、ファミリー2名、SON ボランティア8名、東海支部から12名が参加、公共交通機関を使用して JR 三ヶ根駅に集合、駅から

三ヶ根山あじさい見晴台往復の初級者向きのコースを歩いた。小さなトラブルはいくつかあったが、全員登頂し元気に駅に戻った。SON 愛知「山岳会と一緒に登山」は、秋にも予定しており、秋はバスを使用しての遠方の山を予定している。

ボランティア委員会委員長 前田 隆久



三ヶ根山にて

登山用具あれこれ⑧

登山靴を買いに行くとき

装備委員会委員長 千葉 泰丈

鈴鹿の山も縦走して七時間も歩いて下ってくると、足がかなりよれている。車の横にしゃがみこんで靴を脱いだら、今まで気付かなかったソールに亀裂が入っているのを発見してしまった。靴の亀裂と言うと多くの場合ビブラムとミッドソールの間に隙間があるとか、ミッドソールが経年変化を起こしてボロボロになってソールが剥がれそうになっていることを言うのだがそうではない。ビブラムに大きいナイフかなんかで切れ込みを入れたようなそういう亀裂なのである。山を歩いていてそんな鋭いものを踏んだのだろうか？まったく記憶がない。そんな中、一緒に山を歩いたパートナーの靴を見ればこちらはまさしく経年変化によるミッドソールの亀裂である。今日はたまたま耐えることができたが、ソールがいつベロンと剥がれてもおかしくない状況だった。

後日、そんなわけと一緒に登山靴を買いに行こうという話になった次第であった。彼女には、当日にいつも登山靴を履くときに履いている厚めのソックスを持ってきてねと言って登山用品店へ。まずは自分のものではなくパートナーの靴が優先。接客してくれた店員さんに希望と予算を言い、そして底の固めの靴で数種類を出して下さいと言って、履き比べしてこれしかないというものに決めることができた。問題は、私の希望に沿う靴が無い。これが良いと思う履き心地の靴そのものが無かったり、これならと思った靴は、サイズが無かったりでその日はとうとう決めることができず、帰ることにした。まことに残念。今度山に行くときにどうしよう。まあ私の靴はすぐに壊れることの心配はない状態。次の登山でもそれを履いて行くことができると判断した。買わなければならないという



考えを切り替えた。

新しい靴を手に入れた彼女についてアドバイスしてしまうのは、靴下のせいで、新しい靴なのに本当の意味で快適では無い事が有るという事を言いたかった。新しい靴下も一緒に購入してはどうか？と提案。言わばマニュアル通り。案外靴下も新品の時から劣化していることも多い。それから、登山靴用の防水スプレーをしっかりとかけておいた方が良いという事も。新品の時の綺麗さを長い間キープできる、同時に耐久性もアップするので説明しておいた。

おおよそ親切に購入のアドバイスをしてくれる店員さんですが、やはりそこは人間の弱い所があると感じることが有り、こちらの思うような商品が無い場合でも無理なものを勧めてくることもあると承知しておくべきかもしれない。そりゃ店員さんにとってお客様第一であっても店の売り上げを獲得する方がもっと大事なはずですから。サイズが無くて、合わないサイズのものを無理に買わずに帰って良かったと思った。いつか自分のサイズを探しに行くう。



東海支部の蔵書からの一冊③⑥

図書委員長 石田 文男

『飛驒の山山 - ヤブ山編』

『飛驒の山山 - 国境編』

酒井昭市著

近年、とりわけここ10年、15年の山間・山岳地帯をとりまく環境の変化が大きい。道路事情の悪循環（あえて）はじわじわと環境破壊への道を進んでいる。

いつも冬の時期になると思うのは、スキー場である。ここ20年で永く続いてきた積雪量が半減、何分の一になってきていて、当時栄えていたスキー場も活気が無い。数十年前の「ふるさと・町おこし」に名を借りて、客呼び込みのコンクリートなどによる道路整備が横行した。ゆえに、住環境の悪化、積雪の減少に拍車をかけ、スキー環境の低下に繋がりで自分たちに跳ね返ってきている。心すべきことである。

こういう中であって、この書を挙げるには「三十数年以上前の記録を、今何を」と思われるかも知れない。だが、記録は古いかも知れないが些かも色褪せはしていない。このころ、この山域を扱った類似の紀行・ガイドブックも相次いで出ているが、まずこの書の一読をすすめたい。個人的には「北方稜線の山々をめざして」いた時で、雪の石徹白を巡る山山、笈・大笠・三方崩・猿ヶ馬場・靱糠・人形山などを登っていて、この書の出版時に符合している。

飛驒高地の山は東西に飛驒山脈、白山山地を控え、その狭間を埋める中級山岳の山である。・・・「山国」の印象が強い。人が住むには厳しい自然環境だが、それだけに四季折々の自然の変化は素晴らしく、そこに営まれる人々の暮らしも人情も風土に培われた純粹にして素朴、誇り高い文化をもつ。多くの人々は、そこに日本の原点ともいべき郷愁を見出して訪れるのだろう。

・・・大半の山はヤブで覆われ、登山道も十分に整っておらず、静かな玄人好みの山域と言えよう。そこにはガイドブックに頼らず、自分で地形図を読み、磁石を出してルートを探る楽しみがあり、苦勞して登頂した頂

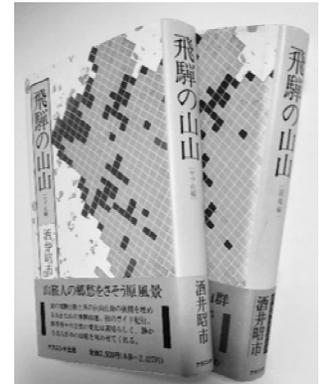
からは北アルプス、白山、乗鞍岳、御岳といった大展望が待っている。有名山岳の如く人で埋まることもなく、・・・自然との出会いが期待できる山々がある。

飛驒高地の山々はまだ未知的な要素を多分にもつ興味ある山々が多い。本書がそうした個性的な山歩きを志向する人々への一助となれば幸甚である。ここまではまえがきの抜粋だが、今や「スマホ頼み」の人たちには〈無用の・・・、猫に小判〉か。あるいは一部の人ではこの類の書を「どう活かすか」である。

先に出た『飛驒の山山 - ヤブ山編』は7部構成。・概略、1.「高原川以北の山 - 天蓋山他9山」、2.「宮川と高原川との中の山 - ソンボ山他15山」、3.「庄川と宮川との中の山 - 金剛堂山他28山」、4.「飛驒川以西山他15山」、5.「飛驒川以東の山 - 乗鞍岳他15山」、6.「登らざる山山の記 - 流葉山他3山」。

姉妹編の『飛驒の山山 - 国境編』は6部の構成。1. 積雪期蒲田川周辺の山。2. 笠ヶ岳東面穴毛谷。3. 白山とその周辺の山。4. 積雪期石徹白周辺の山。5. 阿寺山系の山と峠。6. 恵那山周辺の山山。どの項の山にも読み応えと筆者の思いが伝わってきて、パッと開ければその山を読み切ってしまう。3、4、5、6にある山々には思いを込め久しく通ったのも多いが、計画倒れだけのものも少なくなく、機会を捉えて登りたいものである。

一つ引用したい。〈・・・谷を渡って靱糠山東尾根に取付く。急斜面の雪壁の登りは陽春の日差しを反射して玉の汗が流れ、かなり苦しい。高度を上げるにつれ展望も開け、北方遥かに白木峰、金剛堂山、水無山の飛越国境の山々が真白に輝き、眼下の天生峠も雪の



中。西側には稜線の向う側に猿ヶ馬場山、そして弧を描く雪嶺の続きに栗ヶ岳、・・・猿ヶ馬場山からは白山山地の全容が望め、大日ヶ岳から大笠山まで屏風を立てかけたような山嶺は言語に絶する見事さ。これは「靱糠山」「御前岳」からの一文だが、この記録から13年後、個人的にこの周辺の山々に登ったのが彷彿としてくる。

巻末の付録「飛驒山地の山」には146山（国境編も同数位の山）の標高、三角点、所在地、5万分の一地形図名が紹介されていて、これを見ているといかに自分の登っている山の少ないことか。

「あとがき」にはこうある。〈本書は本来ならば岐阜県境を取り巻く槍・穂高・白山等の記録とともに、「飛驒の山山」と題して一冊に纏める予定であったが、都合によって飛驒山山地の山を分冊として「ヤブ山編」と「国境篇」の2巻にした。・・・したがって林道や歩道、山麓の状況も現状と異なる場合が多

い。その点、入山される折には十分な事前調査をお願いしたい。取り上げた山々は大半はヤブ山で初心者には難しい山登りもあるので、経験を積んだ熟達者に同行されるのが望ましい。近年、中高年登山者による遭難事故が多発しており、山への研究もさることながら万全の準備と自己管理大切にして貰いたいと。

いずれにせよ、「どう山に取り組むか」次第でのこるものに違いがでてくる。

因みに、出版元の〈ナカニシヤ〉はこの半世紀ちかく山岳書を手がけていて、読み応えのある数多の紀行が出ている。その主催者の中西健夫さんにお会いしたこともあるが、先年亡くなっている。

『ヤブ山編』 四六判 316頁

発行：平成2年11月10日

『国境編』 四六判 350頁

発行：平成4年3月28日

ナカニシヤ出版

会員の広場

同好会コーナー

スケッチクラブ

浅井 富士子

名古屋港—海風に誘われて

名古屋港は、面積・輸出額で日本一を誇る港ですが、意外に知られてないのでは。5月17日(水)、8名でスケッチに向かいました。

最初に全員で、港の全貌を把握すべくポートビルの展望室に上って景色を一望…港には何があるのか、一带の景色を眺めてみる。眼前に広がる南極観測船ふじ・ポートハウス・ポートブリッジ・水族館・大観覧車・港関連の建物に続き、名古屋の街並…山を描くのとは違って大いに悩みながら四方に散って行きました。

昼食を含んで3時間余りスケッチの後、埠頭北のフードコートに集まり、いつものように描いたスケッチを広げながらの反省会。

8人8様、それぞれ対象が違って面白い。のっぽのポートビルを見上げて描いた人、ポートビルから俯瞰した広い港一帯を描いた人、観測船ふじを正面から・横から・はたまた内部を描いた人、タロ・ジロ像を対象にした人…様々だし表現方法も違って面白く、学びの時間でもありまた。上手下手は別にして、楽しくつい長くなる。こんな時間が過ごせるスケッチ旅が私は好きです。



名古屋港・ガーデン埠頭にて、ふじ・ポートビルを背に

私は外で描いたが、33.2℃の真夏日に。でも海風もあるのか快適でした。栄から地下鉄で20分、「ガーデン埠頭」の名の通り、緑地も多く整備され、若い人・家族連れ・高校生のグループ等多くの人が訪れていました。皆さんも是非行ってみて下さい。

代表…石井 仁

事務局…村中征也・岩田智与子

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和5年10月~12月分)

- 10月1日(日) ☆
 山域：瀬戸 山名：物見山
 リーダー：金谷 正起
- 10月7日(土) ☆
 山域：瀬戸 山名：物見山
 リーダー：金谷 正起
- 10月8日(日) ☆
 山域：岐阜 山名：高賀山
 リーダー：今津 英一朗
- 10月21日(土) ☆ ☆
 山域：鈴鹿 山名：雨乞岳
 リーダー：倉橋 智司
- 10月28日(土) ☆
 山域：奈良 山名：金剛山
 リーダー：田中 進
- 10月29日(日) ☆ ☆
 山域：鈴鹿 山名：御在所岳
 リーダー：磯部 隆
- 11月9日(木) ☆
 山域：岡崎 山名：京ヶ峯・音羽富士
 リーダー：尾上 昇
- 11月11日(土) ☆ ☆
 山域：多治見 山名：春日井三山・池田富士
 リーダー：池戸 美恵
- 11月12日(日) ☆
 山域：岐阜県 山名：納古山
 リーダー：今津 英一朗
- 11月19日(日) ☆
 山域：静岡県 山名：八高山
 リーダー：近藤 政仁
- 11月25日(土) ☆
 山域：大台ヶ原 山名：高取山
 リーダー：奥野 明美
- 11月25日(土) ☆
 山域：越美山地 山名：蕪山(かぶやま)
 リーダー：田中 進
- 12月2日(土) ☆ ☆
 山域：養老 山名：養老山
 リーダー：磯部 隆

- 12月3日(日) ☆
 山域：鈴鹿 山名：入道ヶ岳
 リーダー：倉橋 智司
- 12月10日(日) ☆
 山域：鈴鹿 山名：竜ヶ岳
 リーダー：今津 英一朗
- 12月10日(日) ☆
 山域：新城市 山名：三ヶ瀬明神山
 リーダー：近藤 政仁
- 12月16日(土) ☆ ☆
 山域：鈴鹿 山名：藤原岳
 リーダー：高松 信治
- 支部友会員数 令和5年6月現在 53名

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

- 第59回講演『ヒマラヤ登山今昔』
 日時：8月8日(火) 19:00~20:30
 講師：尾上 昇(日本山岳会東海支部常任評議員・元日本山岳会会長)
- 第60回「朝明ミーティング」朝明茶屋泊り
 日時：10月14日(土)15日(日)
 1日目~分散登山(鈴鹿連峰)夕食バーベキュー・キャンプファイアー 2日目~ファーストエイド講習、ロープワーク実技講習
- 申込み開始** 支部友会員は山行日の3か月前から、優先は1ヶ月です。支部会員は山行日の2か月前から、山行の募集人員を超えない範囲で参加申し込みを受け付けます。締め切りは山行日の1か月前。

リーダー連絡先

尾上 昇	onoe@onoe.co.jp
金谷 正起	kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
榊 将美	m.sakaki@minds-consultin
松本 陽子	yo-kom@nifty.com
田中 進	t-susumu@peace.ocn.ne.jp
磯部 隆	takass@yk.commufa.jp
高松 信治	takama2nobu3@yk.co
今津 英一朗	imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp
村瀬 恭平	hoshizakari@docomo.ne.jp
近藤 政仁	vft55ud55@gmail.com
倉橋 智司	ilyt6by8@qc.commufa.jp
奥野 明美	tac-okuno@mbi.nifty.com
池戸 美恵	noboruonna@icloud.com

会 務 報 告

【2023年3月常務委員会】

日時：3月22日(水)19時 (zoom 並行開催)

1. 支部長挨拶 (高橋)

・次年度は支部の組織を大きく変えて行くために、支部員には委員会に参加・活躍できる場を作っていく。また、常務委員会内での交流を活性化していく。

2. 総務委員会 (今津)・ヤマトシプロジェクトに30万円寄付が集まった。

・5/14の総会で各委員会の紹介場を作る。支部友委員は議決権はないが参加できる。

3. 海外登山委員会 (山田利行)・カナディアンロッキー未踏峰計画、4/6(木)~4/18(火)13日間 メンバー山田利行、永山虎之介(山岳会入会予定)。

・ヒマラヤ未踏峰フォレ北壁、10月中旬~11月(42日間)メンバー山田利行、山本大貴(山岳会入会予定) 種石英典(山岳会入会予定)。

4. 支部長 (高橋)

【海外登山】・委員長変更 高橋玲司⇒山田利行 副委員長、高橋支部長

・カナディアンロッキー登山隊2023~2025(3か年計画 本部事業120周年記念事業2023.6.23~7.2 山田利行、草野駿希

・韓国交流登山(案)2024 韓国山岳会と交流、2泊3日。

【youthの再編】

・ユースグループの中に①青年部、②トレッキングクラブ、③アルパインクラブ、④東海学生山岳連盟が属す。

① 青年部 50歳以下。クライミングからピークハント。

② トレッキングクラブ(旧東海ユース)、59歳まで。ハイクや緩やかな山行を主とする。交通機関中心。

③アルパインクラブ(新設)年齢制限なし。バリエーション中心、3/9設立16名参加。上級は山田利行担当、初心者支部長担当。

④東海学生山岳連盟 外郭団体、卒業後東海支部への加盟をスムーズにする。

【アルパインクラブ】バリエーションを目指す人材育成。16名参加。月2回程度の山行実施。

5. 愛知山岳連盟 (鈴木絵美子)・4/29岐阜県でのクライミングコンペの運営補助募集、資格要件なし。

・2025年アジア競技大会スポーツクライミングに向けての運営補助の依頼があった。

6. 猿投の森づくり (和田)・2/25なごや環境大学講座「間伐材でシイタケ菌の植菌を体験しよう」14名参加。

・3/4改良型ドラム缶窯の搬入。

・4/8観桜会・新芽を食する会。

7. 支部友委員会 (金谷)・夏山の誘い4/11(火)参加者優先(ZOOMなし)

・5/20~21、ツェルト体験山行初心者向け(遭難対策委員会共同)

8. 山行委員会 (稲葉)・新規山行リーダー豊田由香。新規山行委員、伊藤稔、堀端静夫

9. 亀の会 (加藤)・3/24運営会議、代表交代、4月以降の役員、委員体制と運営方針の確認。

10. 東海ユース (服田)・4月から名称変更、【トレッキングクラブ】とする。

・活動内容、ロープを使わない水平志向の登山を中心とする。

・入会資格年齢、入会時【59歳以下】

・会長、高橋玲司 委員長、服田康宏 副委員長、鈴木絵美子

11. 登山学校 (服田)・支部員から装備が寄贈された。アイゼン1、ビーコン(トレッカー)

・昨年の朝明ミーティングの集合写真を許諾なくYAMAPに掲載、掲載者に取り下げ依頼し、受講生に注意喚起した。

12. 青年部 (荒木)・夏沢鉱泉事故から【課題】基本スキル・技術的部分の経験不足。登山計画書の書方、提出方法のレクチャーを行う。ファーストエイド、セルフレスキューのスキルを身につける。

・夏の沢登、7月1泊2日 奥美濃金ヶ丸谷

13. 東海学生山岳連盟 (鯉江)・9.23~24 ゴザフェス 東海支部の祭典として盛大に盛り上げる。

14. ボランティア委員会 (前田)・3/12ひまわり登山15名(ブライント登山者4名)で実施・春の行事を準備中

15. 支部報 (星)【東海山岳12号】 販価3,300円(税込)で販売中。残部あり。

・第173号支部報は、450部印刷中。

・古い支部報はPDFでHPに掲載。

16. 遭難対策委員会 (高松)・春山気象講座、3/4講師、大矢康弘

- ・登山届をHPから届けができるよう準備中。
- ・登山届・登山計画書の手引きは、印刷に向け最終確認中。

17. 自然保護委員会（井藤）4月以降、委員長は石原俊洋氏に交代。

- ・環境省モニタリング1000引き続き5年間引受ける。

18. 技術向上員会（清水）・大日岳でイグルー講習、講師 米山悟、7名参加スタッフ4名 3/18～19の予定だったが3/18は悪天候だったので3/19に日帰りを実施。

19. 会計（奥山）・支部費の残高が減っている、会費の見直しの提案があった、検討していく。
・支部費の滞納者に再請求しているが手間がかかるので手数料を取ってはどうかと意見があった検討していく。

20. 写真展実行委員会・伏屋委員長退会予定。出席：高橋、今津、服田、和田、前田、高松、西山、鯉江、荒木、星、石原、井藤、奥山 リモート参加：金谷、稲葉、加藤、千葉、山田、清水、鈴木（絵）

【2023年4月常務委員会】

日時：4月26日（水）19時（zoom 並行開催）

1、支部長挨拶（高橋）

- ・4月になり今年度の体制が整った。
- ・6月17/18に若手の活動の活発な広島支部に、アルパインクラブと青年部、学生と共に出向き交流を図りたいと考えている。本部と支部の交流も前田利さんを軸として活発な活動をしていきたい。

2、総務報告・依頼（今津）

・支部員3月度入退会 入会：2 転籍：1 退会：7

・総会準備として4月14日に資料発信 確実に返信ハガキを投函するように各委員会にて周知願います。

・支部会計、経費削減に協力をお願いしたい。
（案）①収益グッズ販売②印刷費の削減（ガイドブックのHP化）他

・支部総会日程：5月14日（日）14:30 於 OMC4F 講堂 各委員会発表：11 各委員会持ち時間7～8分

・夏山フェス日程：6月3日、4日該当委員会は協力スタッフの派遣を願います。

3、支部友会（金谷）

・3月4月の山行について一部雨天中止もあったが後は順調に行われている。

・夏山は9コース全部審議が済んでいる。

・6月13日支部友ミーティング「鈴鹿における山岳遭難の実態と対応」講師：小古真也氏
・支部友会員3月度入退会 入会：1 退会：0 転籍：0 現在会員数57名

4、山行委員会（稲葉）

- ・支部山行については順調に進んでいる。
- ・2023年度リーダー会議を3月23日に開催頂いた意見要望を反映し、支部山行をより活性化していく。

5、亀の会（村瀬）

・4月1日より加藤氏より引き継ぎ新体制となった。委員長：村瀬恭平 副委員長：鈴木慎吾・大島巖 顧問：尾上昇

・4月1日 五条川花見ウオークと懇親会 4月22日月例山行 矢田丘陵と斑鳩の里 実施

6、猿投の森づくりの会（和田）

- ・定例作業他概要については資料どおり
- ・わいがや講座：5月20日（土）開催、於山口公民館 1:30～2:30 「東京大学生態水文学研究所の100年の歩みと活動について」

・5月27日総会予定

7、トレッキングクラブ（服田）

・4月より東海ユースより「トレッキングクラブ」に名称変更（15名）

委員長：服田康宏 副委員長：鈴木絵美子 指導員：鈴木富雄・小古真也・浜島聖明

8、アルパインクラブ（高橋）

・アルパインクラブを新規創設。現在会員数20名 代表：高橋 副代表：林（須） 事務局：大西

- ・活動趣旨：一定以上のスキル・体力・スピード獲得を目指し、上級の初級以上を目標とする。
- ・月2回程度のバリエーション実践練習

9、愛知県山岳連盟（鈴木）

・連盟への提出メンバーの確認 ※山行委員会については5月10日以降に連絡

・4月に総会が開催され法人化により9月より「愛知県山岳連盟」から「公益社団法人愛知県山岳連盟」に名称変更。それに伴い9月に再度総会が開催される。

10、青年部（欠席）代. 高橋

・長期縦走計画について 自転車移動を考えているので資金及び自転車のピックアップ等支部の支援がいただきたい旨の要望が出されている。

・上記の件については、計画書の提出を待ちそののち支援等の検討を行う。（チャレンジ基金より、昨年と同程度の支援金支出を考えてい

る。)

11、支部報 (星)

- ・支部報 NO.174 July. 1. 2023. には新体制となった総会報告を掲載予定。
- ・支部の今後に向けて、支部長をはじめ各委員会の新しい考えや変化等の報告を掲載予定。
- ・その他のシリーズものについても通常どおりの原稿提出をお願いします。
- ・締め切り 5月末 その他の投稿も歓迎します。
- ・新しい印刷会社について、経費の軽減、データのやり取り等問題なく出来ている。

12、青年部 (荒木)

- ・現在会員数 28名
- ・登山計画書作成について目下指導中
- ・夏の沢合宿計画に伴い主要メンバーにて、下見を予定。そのうえで計画を確定予定。
- ・本年度委員会体制及び年間スケジュールについては資料どおり

13、東海学生山岳連盟 (鯉江)

- ・大学間で活動の機会がないため、新歓、クライング等の活動で交流を深めていきたい。
- ・ゴザフェスについても運営にかかわってきてない人が多く問題も多いが、話し合って進めていきたい。支部上げての御在所フェスティバルにしていきたい。期日：9月23・24
- ・全国ユースクラブの集いになればと考えている。(高橋)

14、登山学校 (服田)

- ・第6期について4月・5月資料どおり
- ・第7期について7月開校 4月11日よりHPにて一般受付開始 次期受講生数24名 現在受付数23名
- ・1クラス6名 4クラス予定
- ・次期リーダー 石田(文)・鬼頭・前田・稲葉 各氏

15、海外登山委員会 (欠席) 代・高橋

『資金支援について、どこまで手当てが可能か等、相互に確認の必要がある。』
予算内+募金を募って充当する・チャレンジ基金より支出 予定支援金額については本人と話しをして伝えておく。

16、自然保護委員会 (石原)

- ・委員長 井藤氏より石原氏に交代
 - ・4月13日委員会開催
- 今後について、モニ1000については前委員長が引き続き事務局長を担う。
自然保護を意識した山岳会らしい山行を行っ

ていく。案：大台ヶ原・御嶽北部等)

17、図書委員会 (石田)

- ・頂いた本の整理、ラベリング、リスト化を実施中。蔵書は昨年度50冊程度増。置ける数に限度もあるので入れ替えや処分する本についても検討していく。
- ・支部の蔵書をリスト化しHPで検索できるよう検討中。

18、ボランティア委員会 (前田)

- ・直近としては5月13日に春のブライント登山を実施予定、参加者1級7名2級5名パートナー19名 総数26名 (富幕山)
- ・SON登山 参加者現在募集中(6~7名) 東海支部14名 (山ヶ根山)
- ・たんぼぼ登山 少年3名 裁判所調査官3名 裁判所友の会数名 東海支部7 総数15~16名 (猿投山)

19、遭難対策委員会 (高松)

- ・3月登山届総数74件 リスクチェック表添付数58件 グレード3 7件
 - ・親と子のふれあい登山、!!月4日、11日
 - ・障がい者農業体験まるけファームに、スタッフとして派遣
- この中のG3 2件については審査実施(他については山行済のため審査対象外)
- ・ツエルト泊体験会 5月20・21日朝明茶屋にて実施予定

支部友、メルマガを通じて参加者募集。若干の余裕があるので各委員会も参加呼びかけをお願いしたい。

- ・HPに遭難対策委員会のボタンが完成した。ここよりルールに則った登山届の提出が可能になっている。様式のダウンロードができ、東海三県の登山届のシステムにリンクしているので、届け出の提出促進に利用いただきたい。委員会としては、これにより規定に従った登山届が提出されることを期待している。

『東海支部のHPがスマホ対応でないため、このシステムもスマホでの対応が出来ないのが残念?』

『現状、地図作成やリスクチェック表の作成はPC主流と思われるので一歩前進と考える。』

20、写真展実行委員会 (岩月)

- ・委員長 伏屋氏より岩月氏に交代 副委員長 蟹井・蜂屋 両氏
- ・18回東海岳人写真展来場者 約1,000名
- ・今月の委員会にて、写真展開催を振り返っての検証を行い、問題点等意見の集約し次回に反

映させていく。

・今後の運営について写真山行、写真教室を継続していく。写真山行については、山行報告書を作成、提出する方向にかえていく。

・写真山行 3月. 王ヶ頭 5月. 西穂高

・委員会開催 偶数月の第一木曜日 18:00～『会計処理方法、残金について会計原則に則って処理を行う必要がある。今期資料配布済みにつき次年度に適正な方法で返金処理を行う。総会にて要説明』

21、技術向上委員会（清水）

・安全登山講習について

1 回目 6～7 月 疲労に起因する事故が多いため疲労予防、軽減対策について

2 回目 1～2 月 低体温症、雪崩（自然・人工誘発）「弱層テスト」による雪崩の予見方法 ビーコン操作等現地講習を予定

以上を計画中。若い人を含め多くの人に参加願えるよう工夫をしていきたい。

22、古道調査（西山）

・8月以降事業は停滞中

課題：大台ヶ原の尾鷲辻から木組峠間のトレースがまだできていない。晴れ間を縫って実施予定。

・24 年度に向けて本部は、まとめに入っている。

23、装備委員会（欠席）

24、収益改善について

＊東海支部の収支改善のため収益事業への提案を継続して行っていく。

・60 周年記念マグカップの在庫処理。カレンダー等のグッズの販売。

・助成金のでる事業を探す等

出席：高橋、今津、金谷、稲葉、村瀬、服田、星、荒木、鯉江、前田、高松、岩月、清水、石原、鈴木（絵）、石田、西山、和田

【2023 年 5 月常務委員会】

日時：5 月 24 日（水）19 時（zoom 並行開催）

1、支部長挨拶

・6 年間の会員数の動向をみると若干の減少傾向にある。入会者を定着させるため、支部の活性化のためにも、支部内の横の連携、他支部との交流と支部財政健全化を強化していきたい。

2、総務委員会（今津）

・4 月度入退会 入会 1 退会 3

・総会報告 支部員数 331 出席 50 委任 116 賛成 77 決議案は全て可決

・ガイドブックについて、印刷物として作成せ

ず、PDF 化して HP に掲載する。

・夏フェスは 6/3. 6/4 ウィンク愛知にて開催予定。チラシ、メルマガで周知をはかる。

支部員に講師依頼 鈴木慎吾・小古真也・草野駿希の各氏。

・ヤマトシプロジェクト寄附金案内と共に、支部運営費についても寄付募りたい。

3、正副支部長会（高橋）

・交流委員会 前田さんを核に、本部、支部との交流、支部間の交流事業の促進を実施。

・御在所フェスティバルは支部を挙げてバックアップを行い全国支部の人を呼ぶという集まりにしていきたいので皆さんの協力をお願いしたい。

・26 日（金）19:30zoom にて支部経費節減策を検討する会を開催予定。テーマは支部財政の健全化、支部活性化について。今後の支部を担うような前向きな意見を募りたい。各委員会での人選をお願いしたい。

4、支部友委員会（金谷）

・山行計画については問題なく進んでいる。

・年度の区切りを 3 月－4 月に変更する。

・夏フェスでの入会勧誘目標（オリエンテーション参加）60 名を掲げておこなう。

『夏フェスでの入会勧誘に際しては、希望や関心事に沿った案内を配慮願いたい。その後の定着率を高める事についても今後の課題として協力をお願いしたい。』

5、山行委員会（稲葉）

・山行そのものについては問題なく進んでいる。

・山行委員会の中からリーダーを育成するため訓練山行として沢山行等を予定している。

6、猿投の森づくりの会（和田）資料通り

7、亀の会（村瀬）

・5 月 19 日運営委員会実施

・6 月 14 日「LINE を中心にしたスマホの使い方」をテーマに講習会を行う。講師：鈴木慎吾 副委員長 対象：運営委員

・その他資料通り

8、トレッキングクラブ（服田）

・会員動向 1 名入会 総数 16 名

ホームページを見てとの問い合わせ 2 名（うち 1 名は学生・どこにつなげていくか?）

・その他資料通り

9、アルパインクラブ

・会員動向 総数 21 名

・その他資料通り

10、アルパイン（草野）

・チャレンジ基金からの助成お願いについて
計画目標：国内 3000m峰の全山縦走及び剣岳登攀（9月中旬～10月末）

効果：SNS UPによる山行PR及び東海支部への関心を持ってもらう。動画、写真を編集して支部のユーチューブにUPする。

『若い人を応援し、今後の東海支部の活動に貢献していただくためにも昨年度と同様程度の助成を行う。』合意

11、東海支部報（星）

・総会後の支部報ということで今年度の支部の在り方を内外に周知したいと考えている。

・青年部コーナーを、再編成を行ったユースコーナー（アルパイン・青年部・トレッキング）とする。

・原稿の提出は5月末

12、東海学生山岳連盟（鯉江）

・春の総会（兼新人歓迎会）5月25日 19:00～ 於：支部ルーム

・その他資料通り

13、登山学校委員会（服田）

・6月末で第6期終了 7月より第7期開校 Aクラス3・Bクラス1

14、自然保護委員会（石原）

・自然保護を意識した山行を行う主旨にて霧ヶ峰「八島ヶ原湿原」山行を実施予定。

同様に上山路川遡行を実施予定（夏～秋）。

『今後、委員会内の山行を、全会員に参加呼びかけをする場合、どのようにして行くかについて取り決めが必要なのではないかと考える。

（メルマガ似て発信等）支部の活性化に向けての取り組みとしてできるだけオープンにして横のつながりを作っていくことも必要かと思う。』

15、ボランティア委員会

・春のブライインド登山は雨天中止

・SON登山、タンポポ登山、まるけふあーむは実施に向け準備

16、遭難対策委員会（高松）

・4月登山届提出状況 75件の提出内リスクチェック表添付58件 G3.3件

・ツェルト泊体験 5/20・5/21 朝明茶屋で実施後、日常装備によるセルフレスキュー訓練、ドローンを利用したヘリからの見え方等講習を行った。参加者数17名（好評を得た）

・委員会のHPより登山届が出せることの周知が課題。

・山行計画書提出後に計画等に変更がある場合は改めて一式の再提出をおこなう。（確認）

17、写真展実行委員会（欠席）資料通り

・メルマガ発信：6/1（木）19:00 於：支部ルーム 西穂高独標写真山行報告と検証

18、デジタルメディア委員会（井上）

・スマホからもHPを介して登山届の提出ができるようになり、表示に従って入力頂くと、タイトルに必要な事項が、提出書式に則って記入ができるようになっている。

統計をとる上で苦勞している事（遭難対策委員会）なので是非活用願いたい。

・ユーチューブ用の動画は宣伝効果が高いので各委員会では是非作成してほしい。

・『HPをスマホサイズにする』には超えなければならない問題、作業量が多いので時間が必要。追々考えていく。

19、技術向上委員会（清水）

・今後の活動について、無雪期と積雪期の講習会を行う。無雪期については【疲労】について9月中旬以降、積雪期については【雪崩】をテーマに2月中旬～3月位を考えている。

20、120周年山岳古道調査（西山）

・大台駐車場から尾鷲県道までを歩き終えて東海支部古道調査委員会として挙げた古道調査は終了した。これについては支部報に報告書として掲載予定。

・本部主催の熊野古道、大峰奥駆道の山行プロジェクトについて、奥駆道北部を東海支部が担当。詳細については決まり次第支部長、西山さんより発信していく。

出席：高橋 今津 金谷 稲葉 村瀬 前田 鯉江 西山 星 井上 高松 和田 服田 石原 清水 千葉 石田 草野 奥山

ル ー ム 日 誌

—・— 3月 —・—・—・—・—・—

大会議室 / 小会議

- 1（水） 青年部 /TNCC
- 2（木） 写真展実行委員会
- 4（土） 登山学校机上講習会
- 5（日） 東海ユース
- 6（月） 支部友委員会
- 7（火） 県岳連
- 8（水） 山行委員会
- 9（木） 自然保護委員会
- 13（月） 登山学校運営委員会
- 15（水） 東学連 /技術向上委員会
- 16（木） 正副支部長会議/総務委員会

20(月) 図書委員会・読図会
21(火) ボランティア委員会
22(水) 常務委員会
27(月) /支部友読図会
28(火) 遭難対策委員会
—・— 4月 —・—・—・—・—・—

3(月) 支部友委員会
4(火) 県岳連 /TNCC
5(水) 青年部
7(金) 写真展実行委員会/古道塩の道
10(月) 登山学校運営委員会
11(火) 支部友ミーティング
12(水) 山行委員会
13(木) 自然保護委員会
17(月) 図書委員会・読図会
18(火) ボランティア委員会
19(水) 東学連 /技術向上委員会
20(木) 正副支部長会議/総務委員会

21(金) 亀の会
24(月) /支部友読図会
25(火) 遭難対策委員会
26(水) 常務委員会

会員異動

入会: 荻山恭子(17032) 小幡みさ子(17033)
石田 猛(17042) 木村美代子(17036)
加藤千恵(17037) 近藤佳代子(17038)
近藤美保(17039) 後藤希介(17068)
毛利玲子(17091) 吉野祐介(17102)
加藤大智(17104) 竹本美香(17094)
久野輝美(17105) 石川貴大(17074)
退会: 神谷清子(15268) 脇田幸子(14158)
中塚恵子(15061) 今徳義宣(15150)
高田真歳(11624) 船橋敏子(16479)
加藤さつき(16725) 大倉昌美(16481)
松原立雄(14366) 毛利恵利子(15305)
竹内誉剛(16804)

INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

播隆上人地藏祭りのご案内

揖斐旧春日村笹又地区のお祭りに、東海支部も協賛して合同で播隆上人をたたえます。

期 日：8月20日(日)

場 所：岐阜県揖斐川町春日

さざれ石公園

尚、前日の19日には、前夜祭のイベントとして高橋支部長所有の武家屋敷「IBI base もりなり」および法幢寺にて納涼音楽祭を実施します。前夜から宿泊される方は高橋支部長まで問い合わせ等は、前田副支部長

maedaiq@gmail.com まで

総務委員長 今津英一郎

【東海学生山岳連盟からのお知らせ】

御在所フェスティバルのご案内

今年度は、学生の祭典に加えて全国ユース交流会も兼ねて盛大に行います。クライミングと軽登山を兼ね備えた内容です。支部員の皆さんお待ちしています。

期 日：9月23日(土)～24日(日)

尚、カナダで活躍中の、谷会員が来日し、技術指導いただきます。詳細については下記へ。

問い合わせ先：鯉江東海学生山岳連盟委員長、

および高橋支部長及び前田副支部長まで

東海学生山岳連盟委員長 鯉江知樹

【写真展実行委員会からのお知らせ】

撮影山行ご案内

期 日：7月20日(木)

場 所：保古の湖(岐阜県恵那市)

◎ 申し込み方法

下記にお問い合わせをお願いします。

担当；蟹井 090-5559-1291

写真展実行委員長 岩月邦文

【支部刊行物編纂委員会からのお知らせ】

60周年記念事業として「東海山岳12号」を発行いたしました。残部も少なくなってきました。購入を希望される方は、支部刊行物編纂委員会の委員に申し込みをお願いします。

(P14 参照ください)

支部刊行物編纂委員長 星 一男

編集後記

通常総会で、高橋支部長が勧める海外登山委員会・ユースグループの再編案が承認された。国内外の登山家との交流事業もあると聞く。ユースメンバーが東海支部の「創始の心」を引き継ぎ、活動出来るよう応援したい。星 一男

SINCE 1975
mont-bell
 FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから
www.montbell.jp



0088-22-0031 携帯・IP電話 06-6536-5740
 株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます
 遺言書、遺産分割協議書、
 法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506
 名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004 久屋大通駅 徒歩1分
www.nygs-office.com

『東海支部報』では、
 広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは
jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
 名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
 デザイン、インテリアやセキュリティなど
 オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 **Honesty**

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
 お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業
 本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
 TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457



印刷全般

ご相談ください

(有) **アジマプリント**

〒462-0015名古屋市中区中味鏡二丁目438番地
 TEL(052) 901-1256
 FAX(052) 901-2278
 E-mail: ajimaprint@giga.ocn.ne.jp